

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。
 (教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。
 ※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | | |
|---------|---|---------|------------------------|
| | | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) |
| ① 小・中・高 | ② 2・3・4・5・6年 | 障害名(病名) | 社交不安症、ADHD、自閉スペクトラム症 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | ✓ | |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | | |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | | |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | | |
| A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない) | ✓ | ✓ |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | ✓ | ✓ |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | | |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | | |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | | |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | | |
| B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | | |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | ✓ | ✓ |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | | ✓ |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | | |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | ✓ | ✓ |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | | ✓ |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | | |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | ✓ | ✓ |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | ✓ | ✓ |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | ✓ | ✓ |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | | |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | ✓ | ✓ |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | | |
| C8 経験 (生活経験が低い) | ✓ | ✓ |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | | |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | ✓ | ✓ |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | | |
| D4 多動性 (じっとしていられない、待てない) | ✓ | |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | ✓ | |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | ✓ | ✓ |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | ✓ | ✓ |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室にはいれない) | | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | | |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | | |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | | |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | | |

実施日

1回目 令和元年 7月 19日(金)
 2回目 令和二年 1月 27日(月)

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変更シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考へ、「わらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のわらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | |
|-------|---|------------------------|----------------------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| 小・中・高 | ① 2・3・4・5・6年 | 障害名(病名) | 社交不安症、ADHD、自閉スペクトラム症 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程 → 準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | | | |
|--------------------------------|--|--------------------------------|--------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| ①教育的ニーズの項目 | A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) | D2 巧緻性(手先を使って操作することが指示通りできない) | | | |
| | B9 他者への相談(困った時に相談できない) | | | | |
| | C8 経験(生活経験が低い) | | | | |
| ②課題の整理 | <ul style="list-style-type: none"> 不安な時や困ったときに助けを求められず、その場から動けなくなってしまう。 苦手な活動になると途中でやめてしまう。 自分の思いと違うこと(勝負に負ける、したかったことができないなど)があると、それを受け入れられないときがある。 利き手が定まっておらず、手先を使った細かい作業が苦手である。 | | | | |
| ③支援・配慮等のわらい | <ul style="list-style-type: none"> カード等を使うことで、自分の気持ちを教師に伝えることができる。 様々な活動を経験することで、できることを増やす。(自信をつける) | | | | |
| ④教育的支援・配慮 | | | | | |
| A心理 【受容期】 【試行期】 【安定期】 | B社会性 【受容期】 【試行期】 【安定期】 | C学習 【受容期】 【試行期】 【安定期】 | D身体 【受容期】 【試行期】 【安定期】 | E学校生活 【受容期】 【試行期】 【安定期】 | F自己管理 【受容期】 【試行期】 【安定期】 |

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--------------------|------------------------------|---------------|------------------------------------|----------------------|---------------------|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 | ① 情緒の安定 | ① 他者とのかかわりの基礎 | ① 保有する感覚の活用 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 | ① コミュニケーションの基礎的能力 |
| ② 病気の状態の理解と生活管理 | ② 状況の理解と変化への対応 | ② 他者の意図や感情の理解 | ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 | ② 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 | ② 言語の受容と表出 |
| ③ 身体各部の状態の理解と養護 | ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ③ 自己の理解と行動の調整 | ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 | ③ 日常生活に必要な基本動作 | ③ 言語の形成と活用 |
| ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 | | ④ 集団への参加の基礎 | ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 | ④ 身体の移動能力 | ④ コミュニケーション手段の選択と活用 |
| ⑤ 健康状態の維持・改善 | | | ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導していく内容 | | | | | |

| ⑥教育的支援・配慮の指導効果 | | | | | |
|---|--|---|--|-------|-------|
| A心理 ・手本を見たり、たくさん練習を重ねたりすることで自信をもって活動に取り組めるようになった。 ・困った時に固まらず「難しい」「手伝ってください」などと自分から言えるようになった。 ・様々な場面で成功体験を積み重ねたことで、初めての事に対する不安感は少なくなっている。 | B社会性 ・教師の言葉に頷きで反応したり、自分で気持ちを表現したりすることができた。 ・教師が近くにいることで大人数での活動にも安心して参加することができ、少しずつ教師から離れて活動することができるようになった。 | C学習 ・スモールステップで課題に取り組むことで成功体験を積み重ねることができた。 ・シールなどのご褒美を目標に課題に取り組むことが出来た。 ・1つの活動を短い時間で行うことで飽きずに最後まで学習に取り組むことができた。 | D身体 ・好きな活動と交互に取り組んだり小さな成功体験をたくさん積み重ねたりすることで苦手な活動にも取り組むことが出来た。 | E学校生活 | F自己管理 |

| | | | | | |
|------------|------------------------------------|--|--|--|--|
| ⑦教育的ニーズの変容 | B4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | | | | |
| | B9 他者への相談(困った時に相談できない) | | | | |
| | C8 経験(生活経験が低い) | | | | |

| | | | | |
|-------------------|---|----|-----|----------------------|
| ①・中・高 | 学年 | 1年 | 障害名 | 社交不安症、ADHD、自閉スペクトラム症 |
| タイトル(題材名) | 自分の気持ちを伝えよう | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | <ul style="list-style-type: none"> ・不安なことや困ったこと、苦手なことがあると助けを求めることができず、その場で固まってしまうたり、活動を途中でやめてしまったりする。 ・集中できる時間が短い。一つのことに注目し続けることが難しく、その都度声掛けが必要である。 ・手指を使った活動(指で紙をちぎるなど)が苦手である。 ・製作活動が好きで、作品を人に見てもらいたいという思いが強い。 | | | |

| | |
|-----|---|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちや状態を表す言葉を知り、教師に伝えることができる。 ・作品作りを通して手指を使った活動に取り組むことができる。 |
|-----|---|

自立活動でねらうポイント

| | | | | | |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|
| 健康の保持 ① ② ③ ④ ⑤ | 心理的な安定 ① ② ③ | 人間関係の形成 ① ② ③ ④ | 環境の把握 ① ② ③ ④ ⑤ | 身体の動き ① ② ③ ④ ⑤ | コミュニケーション ① ② ③ ④ ⑤ |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|

| | |
|------|--|
| 指導内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵カードや写真を見ながらその絵が表す気持ちや状態を考える。 ・絵カードを使いながら1日の中で楽しかったことや難しかったことなどを発表する。 ・貼り絵や塗り絵などの作品作りに取り組む。 <p>(追加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に活動する。 ・ルールや順番のある遊びに取り組む。 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを見てその表情が表す気持ちを考えたり、「こんなときどうする」の質問に、適切な行動や言葉を考えたりすることができた。 ・実際に困った場面になったとき、その都度適切な言い方を教えることで自ら「分かりません」や「手伝ってください」などの言葉を使うようになってきた。 ・手指を使った活動も、量や回数を教師と相談しながら決め、最後まで取り組むことができるようになった。 ・様々な活動に取り組んだことで、出来ることや知っていることが増え、初めてのことに對しても、やってみようとする姿勢が見られるようになった。 ・二学期からクラスメイトが増えたことで教師だけでなく同学年の友達とやり取りをする機会が増えた。 ・友達との関わりの中で、自分から話し掛けたり、友達からの声掛けに応じたりすることができるようになった。また、嫌なときに「やめて」と自分の思いを伝えることもできるようになった。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・担任以外の人とでもできることを増やしていく必要がある。 ・「無理」「知らない」など言うこともあるため、その都度適切な言葉遣いで気持ちを伝えられるよう指導していく必要がある。 |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | | |
|-------|---|------------------------|------------------------------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| ① 中・高 | 1・2・3・④・5・6年 | 障害名(病名) | 全般性不安障害、自閉症スペクトラム、学習障害(読み障害) |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | ✓ | |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | ✓ | |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | | |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | | |
| A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない) | | |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | ✓ | ✓ |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | | |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | ✓ | ✓ |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | ✓ | ✓ |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | ✓ | ✓ |
| B2 社会のルールを理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | | |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | | |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | | |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | | |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | ✓ | ✓ |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | ✓ | |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | ✓ | |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | ✓ | ✓ |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | ✓ | |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | ✓ | ✓ |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | ✓ | ✓ |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | ✓ | |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | ✓ | ✓ |
| C8 経験 (生活経験が低い) | ✓ | ✓ |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | | |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | | |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | | |
| D4 多動性 (じっとしていられない、待てない) | | |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | | |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | ✓ | |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | ✓ | ✓ |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない) | | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | ✓ | ✓ |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | | |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | | |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | | |

実施日

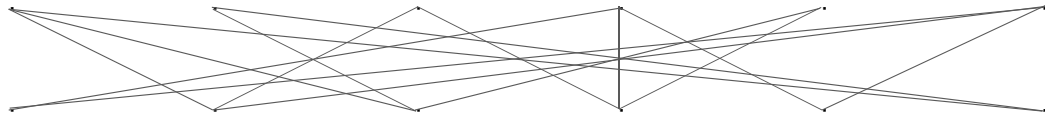
1回目 30年 11月 1日(木)
2回目 31年 3月 8日(金)

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | | | |
|---------|--|---------|------------------------------|--|--|
| | | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | | |
| (小)・中・高 | 1・2・3・(4)・5・6年 | 障害名(病名) | 全般性不安障害、自閉症スペクトラム、学習障害(読み障害) | | |
| 教育課程 | <u>準ずる教育課程</u> 準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | | | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | | | | |
|--|--|--|----------------------|-------------|-------------|--|
| | A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) | | C1 学習状況(勉強の仕方がわからない) | | | |
| ①教育的ニーズの項目 | | | | | | |
| ②課題の整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・新しいことや環境の変化、集団参加などへの不安が大きく、不安定になりやすい。 ・感情によって口調が強くなることもある。 ・学習障害、学習空白から、学習への不安感、拒否感が強い。 | | | | | |
| ③支援・配慮等のねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な教師や友達と一緒に活動することができる。 ・提示された課題に対して、教師と相談してできるところを見つけて活動することができる。 | | | | | |
| ④教育的支援・配慮 | | | | | | |
| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 | |
| (受容期) 試行期 安定期 ・否定的な言葉が多いときは、気持ちが落ち着くまで別の話題をふる。 ・担任以外の教師との活動をするとときは、事前に担任から丁寧に伝え、気持ちを盛り上げておく。 ・友達との活動は、短時間でかつ偶然を装って設定する。 | 受容期 試行期 安定期 | (受容期) 試行期 安定期 ・児童が注目する位置に、教師からの提案を提示する。 ・児童のやりたいことを聞き出し、受け入れる。 ・効果音をつけたリアナウンスを真似たりして課題を提示する。 ・代案や複数の課題を準備する。 ・教師と相談する際は、視覚的に相談した内容が残るようにする。 | 受容期 試行期 安定期 | 受容期 試行期 安定期 | 受容期 試行期 安定期 | |



| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--|---|--|---|---|---|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 ② 病気の状態の理解と生活管理 ③ 身体各部の状態の理解と養護 ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 ⑤ 健康状態の維持・改善 | ① 情緒の安定 ② 状況の理解と変化への対応 ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ① 他者とのかかわりの基礎 ② 他者の意図や感情の理解 ③ 自己の理解と行動の調整 ④ 集団への参加の基礎 | ① 保有する感覚の活用 ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 ② 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 ③ 日常生活に必要な基本動作 ④ 身体の移動能力 ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ① コミュニケーションの基礎的能力 ② 言語の受容と表出 ③ 言語の形成と活用 ④ コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ○ | ☑ | ☑ | ○ | ○ | ○ |
| ⑤自立活動として指導していく内容 | | | | | |

| ⑥教育的支援・配慮の指導効果 | | | | | |
|---|------|---|-----|-------|-------|
| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 |
| ・自分の思いを伝えることができる信頼関係と、受け入れられるという安心感が構築され、担任以外の身近な教師とのかかわりも少しずつ受け入れられるようになってきた。 ・教師の提案を受け入れて集団に参加できるようになってきた。 | | ・担任の提案に対して、「今はしない、でも、○ならでき」と、できる条件を決めることができるようになった。 | | | |

| | | | |
|------------|--------------------------|--|--|
| ⑦教育的ニーズの変容 | A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い) | | |
| | B9 他者への相談(困った時に相談できない) | | |

| | | | | |
|-------------------|---|----|-----|------------------------------|
| 小・中・高 | 学年 | 4年 | 障害名 | 全般性不安障害、自閉症スペクトラム、学習障害(読み障害) |
| タイトル(題材名) | 1組ががんばったね会をしよう | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | <ul style="list-style-type: none"> ・環境の変化、経験のないこと、集団参加に不安を感じる。不安が強くなると外出できなくなることがある。 ・行動を正されたり疲れたりすると不機嫌になることが多い。 | | | |

| | |
|-----|---|
| ねらい | 教師の「1組ががんばったね会をしよう」という提案を受け入れ、教師と相談しながらできることを見つけ、担任以外の教師や友達と一緒に活動に取り組むことができる。 |
|-----|---|

自立活動でねらうポイント

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|-----------|--------|---------|-----------|-----------|-----------|
| ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ | ① ② ③ ④ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ |

○ ○ ○ ○ ○ ○

| | |
|------|---|
| 指導内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年生の女兒と一緒にお菓子を作り食べる活動である。 ・友達と協力して作ることができるように、全員で1つ作るように材料を示す。 ・作業手順を見やすい位置に提示し、担任が近くで指示を繰り返す。作業手順は、分担する部分と一緒に作業する部分を用意する。 ・均等な量に分けられるように、児童と一緒に確認したり、透明な容器を用意したりする。 ・全員と一緒に「いただきます」の挨拶をして会話しながら食べる。 ・全員と一緒に「ごちそうさま」の挨拶をする。 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・3年担任と3年女兒が4年教室にお菓子作りに誘いに行った。予告をせずに行ったことで、構えることなく「いいよ」と言うことができた。 ・友達と一緒にお菓子を作ることができるように、自分の椅子をずらす様子が見られた。 ・作業手順を確認することで、自分の役割を理解して取り掛かり、友達と一緒に作業では、友達を待つこともできた。 ・友達が食べ終わるまで3年担任と会話しながら待ち、全員そろって「ごちそうさま」の挨拶ができた。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分が食べ終わると、離席してしまった。教師の言葉がけを受けて待つことができたものの、周りの様子を見て行動することも気づかせていきたい。 |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。
 (教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。
 ※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | | |
|-------|---|------------------------|------------------------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| ①・中・高 | 1・2・3・4・5 ⑥年 | 障害名(病名) | 不安障害、強迫性障害、自閉症スペクトラム障害 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | ✓ | |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | | |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | ✓ | ✓ |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | | |
| A5 自己理解 (何が辛いのが自分でもわからない) | | |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | | |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | | |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | ✓ | ✓ |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | | |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | ✓ | ✓ |
| B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | | |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | | |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | ✓ | ✓ |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | | |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | ✓ | ✓ |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | ✓ | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | ✓ | ✓ |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | | |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | ✓ | ✓ |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | | |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | | |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | ✓ | ✓ |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | | |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | | |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | ✓ | ✓ |
| C8 経験 (生活経験が低い) | ✓ | ✓ |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | | |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | | |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | ✓ | ✓ |
| D4 多動性 (じっとしていられない、待てない) | ✓ | ✓ |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | ✓ | ✓ |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | | |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | | |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室にはいれない) | ✓ | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | | |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | ✓ | ✓ |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | ✓ | ✓ |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | ✓ | ✓ |

実施日

1回目 2018年 10月 15日(月)
 2回目 2019年 1月 23日(水)

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | |
|---------|---|---------|--|
| (小)・中・高 | 1・2・3・4・5 (6) 年 | 障害名(病名) | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) 不安障害、強迫性障害、自閉症スペクトラム障害 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 項 目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | | | |
|---|--|--|---|---|--|
| ①教育的ニーズの項目 | A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) | B1 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない) | B8 他者への信用(人が信用できない、人と関わりたいくない) | | |
| | C1 学習状況(勉強の仕方がわからない) | C8 経験(生活経験が低い) | D4 多動性(じっとしてられない、待てない) | | |
| ②課題の整理 | E3 登校・入室への抵抗感(学校へ行きたくない、教室には入れない) | | | | |
| | F2 食事(給食が食べられない、外食ができない) | | | | |
| ③支援・配慮等のねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・不安が強く、心理的な安定を築くことが難しい。その結果、登校への渋りが見られる。 ・対人への不安があり、レポートがとれた人以外との関わりが難しい。そのため、集団での学習が難しく課題。 ・生活経験全般において経験不足から粗大運動や微細運動などにぎこちなさが見られる。 | | | | |
| ③支援・配慮等のねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・本人の興味関心のある話を聞くことで、安心できる人間関係を築く。 ・信頼できる担任との関係から登校へとつなげる。 ・徐々に信頼できる人を増やし学校を心地よく安心できる場にする。 | | | | |
| ④教育的支援・配慮 | | | | | |
| A心理 受容期 試行期 安定期 A1: 気持ちを聞く。共感・理解する。無理なく好きな活動ができるようにする。→相談しながら行えるようにする。→スモールステップで行う学習設定。 | B社会性 受容期 試行期 安定期 B1: 安心できる環境作り。気持ちを聞く。休息、クールダウンできるようにする。→無理なく好きな活動ができるようにする。 B8: 気分転換、クールダウンできるようにする。話を聞く、共感する。→無理せず行っていく。安心できる環境作り。 | C学習 受容期 試行期 安定期 C1: 無理なくすきな活動ができるようにする。安心して取り組める設定。→見通しが持てるようにする。分かりやすく提示する。 C8: 無理なく活動できるようにする。→スモールステップで取り組む学習設定。→不適切な行動の対処を考えられるようにする。 | D身体 受容期 試行期 安定期 D4: 無理せず気持ちを受け止める。クールダウン・休憩ができるようにする。 | E学校生活 受容期 試行期 向上期 E3: 学習場所を柔軟に変更する。共感・理解する。→無理なく好きな活動ができるようにする。 | F自己管理 受容期 試行期 安定期 F2: 気持ちを聞いて受け止める。食べる場所を工夫する。→相談しながら行えるようにする。 |

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--|---|--|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 生活のリズムや生活習慣の形成 ② 病気の状態の理解と生活習慣 ③ 身体各部の状態の理解と養護 ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 ⑤ 健康状態の維持・改善 | <ul style="list-style-type: none"> ① 情緒の安定 ② 状況の理解と変化への対応 ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | <ul style="list-style-type: none"> ① 他者とのかかわりの基礎 ② 他者の意図や感情の理解 ③ 自己の理解と行動の調整 ④ 集団への参加の基礎 | <ul style="list-style-type: none"> ① 保有する感覚の活用 ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | <ul style="list-style-type: none"> ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 ② 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 ③ 日常生活に必要な基本動作 ④ 身体の移動能力 ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | <ul style="list-style-type: none"> ① コミュニケーションの基礎的能力 ② 言語の受容と表出 ③ 言語の形成と活用 ④ コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導している内容 | | | | | |

| ⑥教育的支援・配慮の指導効果 | | | | | |
|---|--|--|---|---|--|
| A心理 指導内容を継続した結果「A1不安・悩み」について解消され、欠席がなくなった。 | B社会性 指導内容を継続した結果「B8他者への信頼」について、小学部教員や、他学部の先生・生徒(特定の人)と関わりが持てるようになった。他者を介した遊びを提案して楽しむようになった。 | C学習 PCを介してのやりとりが多かったが、遊び方に広がりが見え、「コミュニケーションゲームやすごろく、トランプ」などで遊ぶようになった。 | D身体 遊び方にも広がりが見えてきた。「ポッチャ」「ボール当て」や「チャンバラ」など体を使った遊びの提案が出てきた。以前と比べると、落ち着かず教室内を歩き回ったりする様子が減った。 | E学校生活 指導内容を継続した結果「E3登校・入室への抵抗感」について、 | F自己管理 家庭において登校が安定したことで、家庭での生活リズムが整った。家庭での食事が増えた。外出で遠くまで行くことができるようになっていった。 |

| | | | |
|------------|-------------------------------|--------------------------|----------------|
| ⑦教育的ニーズの変容 | BO 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない) | C1 学習状況(勉強の仕方がわからない) | C8 経験(生活経験が低い) |
| | D4 多動性(じっとしてられない、待てない) | F2 食事(給食が食べられない、外食ができない) | |

| | | | | |
|-------------------|---|----|-----|------------------------|
| ①小・中・高 | 学年 | 6年 | 障害名 | 不安障害、強迫性障害、自閉症スペクトラム障害 |
| タイトル(題材名) | 登校に対し、不安のある児童に対する登校への支援の手立てについて | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | 不安が強く、心理的な安定を築くことが難しい。その結果、登校への渋りが見られる。 対人への不安があり、ラポートがとれた人以外との関わりが難しい。そのため、集団での学習が難しく課題。 生活経験全般において経験不足から粗大運動や微細運動などにぎこちなさが見られる。 | | | |

| | |
|-----|---|
| ねらい | 本人の興味関心のある話を聞くことで、安心できる人間関係を築く。 信頼できる担任との関係から登校へとつなげる。 徐々に信頼できる人を増やし学校を心地よく安心できる場にする。 |
|-----|---|

自立活動でねらうポイント

| | | | | | |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|
| 健康の保持 ① ② ③ ④ ⑤ | 心理的な安定 ① ② ③ | 人間関係の形成 ① ② ③ ④ | 環境の把握 ① ② ③ ④ ⑤ | 身体の動き ① ② ③ ④ ⑤ | コミュニケーション ① ② ③ ④ ⑤ |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|

| | |
|------|---|
| 指導内容 | 登下校の時間もきめず、いつでも登校できる状況を作る。 本児が安心して登校できるよう、授業、学習らしいことは行わず、共感的姿勢で話を聞くことを中心に行う。 教科の学習に関しては、普段の話から、教師が意識してピックアップし、学習につなげられるようにする。 担任とのラポートが取れるまでは限られた人と関わり、関係性を深める。 本人に対する提案も一日一つくらいを目安に、過度の負担をかけないよう配慮する。 登下校や家庭での様子等、保護者との連携を密に行う。 |
| 成果 | 担任とのラポートが取れるようになり、ぎこちなさを感じることなく、自然に話ができるようになった。 一月中旬現在、午前か午後かどちらかで毎日に登校ができるようになった。 学習に関しては、簡単な自作学習プリントに取り組むことができるようになってきた。 タイミングや量など配慮はするが、色々な提案が行えるようになり、本人からもやりたいこと等を言えるようになった。 |
| 課題 | 小学部の先生を中心に関わりを深めたが、担任以外とは不安を感じる。 他学部の先生と関わる場を作るようにした。また、生徒とも関わりを持つ機会があるが、大人数で話すと疲れが残る。 中学部への進学が大きな課題。登校頻度が変わらないようにするための方法を模索中。 |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。
 (教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。
 ※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | | |
|---------|---|------------------------|----------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| (小)・中・高 | 1・2・3・4・5・(6)年 | 障害名(病名) | 小児社交不安障害 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(小学生適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | ✓ | ✓ |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | ✓ | ✓ |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | ✓ | ✓ |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | ✓ | |
| A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない) | ✓ | ✓ |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | ✓ | |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | ✓ | ✓ |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | ✓ | ✓ |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | ✓ | ✓ |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | ✓ | ✓ |
| B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | ✓ | ✓ |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | ✓ | |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | | |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | | |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | ✓ | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | ✓ | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | ✓ | ✓ |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | ✓ | ✓ |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | | |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | ✓ | |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | | |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | | |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | | |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | ✓ | |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | ✓ | ✓ |
| C8 経験 (生活経験が低い) | ✓ | ✓ |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | | |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | | |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | | |
| D4 多動性 (じっとしてられない、待てない) | | |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | ✓ | ✓ |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | | |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | | |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない) | | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | ✓ | ✓ |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | ✓ | |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | ✓ | ✓ |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | ✓ | ✓ |

実施日

1回目 2018年 6月 26日(月)
 2回目 2018年 12月 3日(月)

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考へて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | | |
|-------|---|---------|------------------------|--|
| 小・中・高 | 1・2・3・4・5・6年 | 障害名(病名) | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| | | | 小児社交不安障害 | |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | | | | |
|---|--|---|---|---|---|--|
| ①教育的ニーズの項目 | A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) | A7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | B3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない) | | | |
| | A4 意欲・気力(目標が持てない、やる気がおきない) | A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い) | C8 経験(生活経験が低い) | | | |
| | A5 自己理解(何が辛いのか自分でもわからない) | B1 集団活動(集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | | | |
| ②課題の整理 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の心身の状態をうまく言語化できず、黙り込んだり、問いかけに応じないことがある。 気持ちが落ち込んだ時に、自ら気持ちを調整することが難しく、かわり手を替えることで気持ちを調整することが多い。 不登校の経験から室内で過ごすことが増え、夜型のリズムになっているため、学習への集中時間が短く、意欲も低い。 失敗をすることが苦手で、自ら難しいと判断した活動へは取り組もうとすることはない。 | | | | | |
| ③支援・配慮等のねらい | <ul style="list-style-type: none"> 生活リズムや健康状態を把握し、心身が安定した状態で生活をする。 自分の気持ちを伝える方法を身に付けて、身近な人に伝えることができる。 学習での達成感を感じる経験を積み、自信をもつことができる。 得意なことや不得意なことが分かり、得意なことを活かした活動経験を積み、自信をもつ。 | | | | | |
| ④教育的支援・配慮 | | | | | | |
| A心理 (受容期) 試行期 安定期 | B社会性 (受容期) 試行期 安定期 | C学習 (受容期) 試行期 安定期 | D身体 受容期 (試行期) 安定期 | E学校生活 受容期 (試行期) 安定期 | F自己管理 (受容期) 試行期 安定期 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 好きな活動を行う時間を十分に確保し、気持ちを安定させて学習に取り組めるようにする。 不安定な心理状態の時には、クールダウンの場を設け、調整の時間を確保する。 話ができないときには、選択肢を提示し、気持ちを表せるようにする。 本人からの聞き取りが難しいときには、母親を介して不安定な状態の原因の聞き取りを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 好きな活動を共有し、一緒に活動を行うことで、教師との信頼関係の基盤を築く。 | <ul style="list-style-type: none"> 体験的な活動を取り入れたり、日常生活のことに置き換えて学習問題を説明したりすることで、「わかる」、「できた」の経験を積めるようにする。 得意なことや好きなことを取り入れた活動を行うことで、集中して活動に取り組めるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 気持ちが安定しているときには、靴の履き方や服の着方など正しくできる方法を提案する。 | <ul style="list-style-type: none"> 好きな活動や得意な学習を行い、学習意欲を高める。 修学旅行などの目標を設定し、学校生活への長期的な見通しを持つことができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 体調の状態を話し合う場面を設ける。 気持ちが安定しているときには、改善方法を提案する。 散歩やボール運動など無理のない範囲の運動を日常の中に取り入れ、運動習慣を身に付けられるようにする。 | |

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--------------------|------------------------------|---------------|------------------------------------|-----------------------|---------------------|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 | ① 情緒の安定 | ① 他者とのかかわりの基礎 | ① 保有する感覚の活用 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 | ① コミュニケーションの基礎的能力 |
| ② 病気の状態の理解と生活管理 | ② 状況の理解と変化への対応 | ② 他者の意図や感情の理解 | ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 | ② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 | ② 言語の受容と表出 |
| ③ 身体各部の状態の理解と養護 | ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ③ 自己の理解と行動の調整 | ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 | ③ 日常生活に必要な基本動作 | ③ 言語の形成と活用 |
| ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 | | ④ 集団への参加の基礎 | ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 | ④ 身体の移動能力 | ④ コミュニケーション手段の選択と活用 |
| ⑤ 健康状態の維持・改善 | | | ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導している内容 | | | | | |

| ⑥教育的支援・配慮の指導効果 | | | | | |
|--|---|--|-----|---|--|
| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 |
| <ul style="list-style-type: none"> 好きな活動を十分に行うことで、活動への切り替えが早く、自己調整しながら学習に取り組むことができた。 気持ちが安定しないときには、教師と話をすることもできず、ふさぎこんでいる場面があった。選択肢から選択することも拒んでいた。 | <ul style="list-style-type: none"> 教師に得意なイラストの描き方を教えたり、好きなものを知らせ、共有しようとしてコミュニケーションが増えた。 担任以外の教師や友だちとの会話も増え、誕生日プレゼントに自作のイラストをあげる場面が見られた。 | <ul style="list-style-type: none"> 好きな教科だけでなく、苦手な教科や興味の低い学習へも必要性を感じて取り組む姿が見られるようになった。 テストや復習プリントで、自分の学習の定着度を確認することへ意欲的で、進んで取り組むことができるようになった。 | | <ul style="list-style-type: none"> 教師と対話をしながら学習に取り組む場面が増えた。 週に1度の休みを取ることで、安定したリズムで登校することができている。 | <ul style="list-style-type: none"> 気持ちが安定しているときには、睡眠状態やリズムの確認を行った。睡眠の時間や質について目を向けることができた。 毎朝、心拍数やSPO2の測定をする。自分の心拍数や疲労度に目をむける場面も増え、一日の過ごし方について考えようすることができた。 |

| | | | |
|------------|--------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| ⑦教育的ニーズの変容 | A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) | A5 自己理解(何が辛いのか自分でもわからない) | A7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする) |
| | A7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | B3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない) | F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) |

| | | | | |
|-------------------|---|----|-----|----------|
| ①小・中・高 | 学年 | 6年 | 障害名 | 小児社交不安障害 |
| タイトル(題材名) | 好きなものを紹介しよう | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | <ul style="list-style-type: none"> ・アニメを見る、イラストを描く、ゲームをする、マンガや推理小説を読む、動画サイトの閲覧をすることが好きである。 ・かかわる人の幅や活動範囲が狭いことから、自分中心の会話になりやすい。そのため、会話の中で主語がなかったり、略語を用いて話を進めたりすることが多く、聞き手が理解することが難しいことがある。 ・不特定多数の人に注目されることは苦手であるが、学級の壁面にイラストを掲示したことをきっかけに、アニメが好きな生徒に声をかけてもらう経験をしている。掲示板が会話のきっかけになることを理解しており、本題材は見通しもちやすい活動である。 ・目の前のことや自分の興味のある事柄に気持ちが移りやすい。物事を選択したり、決定したりすることが苦手であるが、教師が提案したことを受け入れて活動を行うことができる。 | | | |

| | |
|-----|---|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・好きなことの内容を教師に伝えたり、文字言語やイラストで表現して、多くの人に伝えることができる。 【人間関係の形成(3) 自己の理解と行動の調整に関すること 【コミュニケーション(5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること ・教師と相談しながら、活動への見通しをもって取り組むことができる。 【心理的な安定(2)、人間関係の形成(4)、コミュニケーション(5)】 |
|-----|---|

自立活動でねらうポイント

| | | | | | |
|-----------|--------|---------|-----------|-----------|-----------|
| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
| ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ | ① ② ③ ④ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ |

| | |
|------|--|
| 指導内容 | <p><計画></p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分の好きなことを書き出し、自分を見つめなおす。 ②自分の紹介したいもののテーマを決め、具体的な完成予想図を決める。 ③教師と相談しながら、掲示物の完成までの計画を立て、見通しをもつ。 ④自分の好きなものについてイラストや文章で表現する。 <p><手立て></p> <ol style="list-style-type: none"> ①児童が自らを客観的な視点で見つめられるよう、自分の好きなことや得意なものを書き出すためのワークシートを使用する。 ②④書字に抵抗があるときは、教師が代筆をしたり、PC入力で作成したりすることを促す。 ①④教師も児童と一緒に、同じ題材で制作活動を行うことで児童が負担感を抱かないようにする。 ②掲示の方法について、児童が具体例を見てイメージをもてるようにインターネットを使用する。 ③児童と一緒に簡単な計画表を作成し、計画を視覚化する。 ④児童が取り掛かりやすいよう、見本を提示したり、吹き出しを用いたりする。 ④児童が見てもらえる人へ伝わりやすい文を主体的に考えられるよう、例文を多く示す。 ④活動が滞るときには、児童と書く内容、書く分量について相談しながら実施する。 ④児童の言葉を尊重し、肯定しながら活動を行い、活動意欲が持続できるようにする。 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、好きな音楽を作成した。音楽への関心が高いため、意欲的に紹介したい曲や歌手を教師と一緒に話し合うなどすることができた。しかし、紹介文の作成へは意欲が低いため、決定してから作成に取りかかるまでに気持ちが乗らず1週間ほど空いてしまった。その間に話し合いをしながら、教師が文を書くこと、貼る写真を準備することなどを決めた。また、文章で紹介文を書くことへは拒否を示したが、好きな歌の歌詞をPCで入力する活動へは意欲をもつことができ、進んで活動に取り組むことができた。 ・教師の作例を見て、活動への見通しをもち「写真だけでもよいかな。」と相談することができた。活動当初は、やりたくないのではなく、完成できるか不安なことを教師に伝えられなかったようであるが、次第に伝えられるようになった。 ・紹介したものが見てもらえたか確認をするために、どの曲を聞いてみたいかを見た人にシールを貼ってもらった。毎日、シールの数の変化に気持ちを向けている姿が見られるようになり、学級外の児童生徒や教師にも目を向けるようになってきた。 ・同じ題材を国語科で他の教師とも行った。国語科では好きな本を文章で紹介した。図書室の前に掲示することで他学部の生徒や教師に見てもらえる機会が増え、声をかけてもらう場面も増えた。声をかけてもらうことで、図書室に紹介をした本を置いたほうがいいのか？など気持ちを外に向ける場面もあった。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・完成の目安を提示されても意識することはできなかった。 ・見本を見て活動への見通しはもてるが、やりがいを感じないと活動が滞ってしまう場面が多かった。 ・失敗をすることが苦手なため、わからないことや難しそうなものへの挑戦をしようとしなかった。 ・取捨選択が苦手な様子で、好きな音楽という広いジャンルの中で一つに絞ることができなかった。そのため、活動への意欲が低下したようだ。 |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。
 (教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。
 ※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | | |
|-------|---|------------------------|---------------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| 小・中・高 | 1・2・3・4・5・6年 | 障害名(病名) | 身体表現性障害・不安神経症 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ざる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | ✓ | ✓ |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | | |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | | |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | | |
| A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない) | | |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | ✓ | |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | | |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | ✓ | ✓ |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | | |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | | |
| B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | | |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | | |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | | |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | | |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | | ✓ |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | | |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | | |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | | |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | | |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | | |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | | |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | | |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | | |
| C8 経験 (生活経験が低い) | | |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | ✓ | ✓ |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | | |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | | |
| D4 多動性 (じっとしていられない、待てない) | | |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | ✓ | ✓ |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | | |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | | |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室にはいれない) | | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | | |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | | |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | | |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | | |

実施日

| | | | |
|-----|----|----|--------|
| 1回目 | 1年 | 5月 | 27日(金) |
| 2回目 | 2年 | 1月 | 24日(金) |

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | |
|-------|---|------------------------|--------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| 小・中・高 | 1・2・3 | ④ | 4・5・6年 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程 → 準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |
| | | 障害名(病名) | |
| | | 身体表現性障害・不安神経症 | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | | | |
|--|---|-------------|--|-------------|-------------|
| ①教育的ニーズの項目 | A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) | | B9 他者への相談(困った時に相談できない) | | |
| | A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない) | | D1 身体状況・体調(お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | | |
| | A8 気分の変動(気分の浮き沈みがある) | | | | |
| ②課題の整理 | A1 前籍校での出来事を引きずり、不安が強い。悩み出すと頭痛を訴える。 A6 気持ちの表現が苦手である。 A8 調子が良いときと悪いときの差が大きい。悪いときには頭痛など体調不良を訴える。 B9 他者への相談が苦手。 D1 腹痛、頭痛を訴える。心理的に不安定な状態のときにおきやすい。 | | | | |
| ③支援・配慮等のねらい | ○家庭生活上の保護者とのやりとりで不調を訴えるようになる？ ○保護者の心理状態を保つことが本人の情緒の安定につながる？ ○気持ちの表現については、本人が発する言葉を丁寧に聞き取るようにする。 ○困った気持ちのときに表出することが苦手なので、教師が適宜問いかけるようにする。 ○自分のタイミングで気持ちを表現することができるように、リハーサルを踏まえるようにする。 | | | | |
| ④教育的支援・配慮 | | | | | |
| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 |
| (受容期) 試行期 安定期 ○気持ちを聞く ・表情を見て、きつそうときには教師から声を掛ける。 ○共感・理解する ・小さなことでもほめるようにする。 | 受容期 (試行期) 安定期 ○相手の気持ちを考えさせる。 ・モデルケースをあげて適切な行動を考える時間を設ける。 ・実際にあったことを振り返ってどうすればよかったかを考えていく。 | 受容期 試行期 安定期 | (受容期) 試行期 安定期 ○不調を訴えたときは無理をさせない ○不安が大きいことは、見通しがもてるように提示したり、前もって伝えるようにする。 | 受容期 試行期 安定期 | 受容期 試行期 安定期 |

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--|---|--|---|---|---|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 ② 病気の状態の理解と生活管理 ③ 身体各部の状態の理解と養護 ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 ⑤ 健康状態の維持・改善 | ① 情緒の安定 ② 状況の理解と変化への対応 ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ① 他者とのかかわりの基礎 ② 他者の意図や感情の理解 ③ 自己の理解と行動の調整 ④ 集団への参加の基礎 | ① 保有する感覚の活用 ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 ② 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 ③ 日常生活に必要な基本動作 ④ 身体の移動能力 ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ① コミュニケーションの基本的能力 ② 言語の受容と表出 ③ 言語の形成と活用 ④ コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導していく内容 | | | | | |

| ⑥教育的支援・配慮の指導効果 | | | | | |
|---|----------------------------|-----|---|-------|-------|
| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 |
| 成功体験を多く積ませることで自分に自信を持てるようになった。 集団の中に入った。前で発表したりすることに大きな抵抗を感じなくなった。 体調不良を担任に伝えることができるようになった。 | クラスメイトを思いやった声掛けが出来るようになった。 | | 体調不良にならないようにするための工夫や、服薬のタイミング、体調不良を起こしたときにどうするかなどの相談を一緒にすることができた。 | | |

| | | | | |
|------------|--------------------------------|--|------------------------|--|
| ⑦教育的ニーズの変容 | A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) | | D5 感覚過敏(においに敏感、大きな声が嫌) | |
| | B9 他者への相談(困った時に相談できない) | | | |
| | D1 身体状況・体調(お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | | | |

| | | | | |
|-------------------|---|-------|-----|---------------|
| ① 小・中・高 | 学年 | 小 4 年 | 障害名 | 身体表現性障害、不安神経症 |
| タイトル(題材名) | 困ったときは相談しよう | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | <ul style="list-style-type: none"> ・不安感が強いときに、頭痛や体調不良を訴える。 ・緊張が強くなり、語気が強くなったり他者受容ができなくなったりする。 | | | |

| | |
|-----|---|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・心身の不調を感じたときに、症状が重たくならないように工夫することができる。 ・他者との適切な関わりを保つことができる。 |
|-----|---|

自立活動でねらうポイント

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|-----------|--------|---------|-----------|-----------|-----------|
| ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ | ① ② ③ ④ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ |

| | |
|------|---|
| 指導内容 | <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣の指導。 ○心と体の関係について知る。 ○心と体の関係について知る。 ○自己理解を深める。 ○気持ちの表現方法 ○TPOに応じた人の関わりあい方、接し方 ○相手や場所に応じた 話し方・接し方。 |
| 成果 | <p>成功体験を多く積ませることで自分に自信を持てるようになった。 集団の中に入ったり、前で発表したりすることに大きな抵抗を感じなくなった。 体調不良を担任に伝えることができるようになった。 体調不良を起こしたときに自分で休憩をする選択ができるようになった。 体調不良にならないようにするための工夫や、服薬のタイミング、体調不良を起こしたときにどうするかなどの相談を一緒にすることができた。 クラスメイトを思いやった声掛けが出来るようになった。</p> |
| 課題 | <p>今まで不安を感じていた場面にストレスを感じることは少なくなってきたが、特定の場所、人に強い恐怖感が残っているので、段階的に恐怖をやわらげる取り組みを行っていく。</p> |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | | |
|---------|---|------------------------|-----------------------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| (小)・中・高 | 1・2・3・4・5・6年 | 障害名(病名) | アレルギー症状・適応障がい・読み書き障がい |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | | |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | | |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | | |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | ✓ | ✓ |
| A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない) | | |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | | |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | | |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | | |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | ✓ | ✓ |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | | |
| B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | | |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | | |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | | |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | | |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | | |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | | |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | ✓ | |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | ✓ | ✓ |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | | |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | ✓ | ✓ |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | | |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | ✓ | ✓ |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | ✓ | ✓ |
| C8 経験 (生活経験が低い) | ✓ | ✓ |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | | |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | | |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | ✓ | ✓ |
| D4 多動性 (じっとしていられない、待てない) | ✓ | |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | | |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | | |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | | |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室にはいれない) | | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | ✓ | ✓ |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | | |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | | |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | ✓ | ✓ |

実施日

1回目 R1年 5月 10日(金)
2回目 R2年 1月 22日(水)

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考慮して、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | |
|-------|---|------------------------|-----------------------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| 小・中・高 | 1・2・3・4・5・6年 | 障害名(病名) | アレルギー症状・適応障がい・読み書き障がい |
| 教育課程 | 準ずる教育課程 → 準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | |
|-------------|---|--------------------------------|-------------------------------|
| ①教育的ニーズの項目 | A4 意欲・気力(目標が持てない、やる気がおきない) | A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い) | C1 学習状況(勉強の仕方がわからない) |
| | C2 処理能力(書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | C4 読み・書き(文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | C6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない) |
| | C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない) | C8 経験(生活経験が低い) | D3 動作・体力(体力がない、動きがはやくできない) |
| ②課題の整理 | A「心理」・学習障がい(書字・読字障がい)を背景とした、学習への自信のなさ。学校生活への意欲低下、生活を向上させる意欲の低下。 C「学習」・書字・読字障がいによる学習内容の習得度の低さ。・注意集中の持続の困難さ。貧乏ゆすりなどの多動。 D「身体」・手先の不器用さによる書字の困難さ。 F「自己管理」・ストレス源から逃避することで対応。 | | |
| ③支援・配慮等のねらい | 保護者の都合もあるが、登校が安定しない。学習課題に向き合おうとせず、学習のきつさを訴える。 不登校期間が約2年間に及んでおり、自分が好む活動しか学んでいない。現在は受容する段階にあると考える。 本人の訴えがあれば受容的に聞き取る。 急激に負荷をかけないようにして、徐々に教室で学習できる時間を延ばす。 本人の集中力が持続する時間を越えないようにする。 | | |

④教育的支援・配慮

| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 |
|---|-------------|--|---|-------------|--|
| (受容期) 試行期 安定期 A4無理なく好きな活動ができるようにする。 ・本人が好む活動を一日に一つは設定し、意欲面を持続させる。 | 受容期 試行期 安定期 | (受容期) 試行期 安定期 C1無理なく好きな活動ができるようにする。 ・本人が好む学習(社会、理科、音楽、図工、体育等)を中心に指導しながら、教科書習熟を行うようにする。 C4書く負担を減らして学習できるようにする。 ・漢字の書取りは、本人が極端に嫌がっているため、書字の学習は行わず、漢字の読みのみ指導する。 | (受容期) 試行期 安定期 D1体調を整える。 ・アレルギー疾患があり過度な運動はできない。 ・本人がやりたい運動は適度に取り組ませる。 | 受容期 試行期 安定期 | (受容期) 試行期 安定期 F1体調を把握する。 ・睡眠リズムの実態をよく把握できていない。家庭での過ごし方(ゲームやテレビの時間、就寝時間)に気をつけさせる。 |

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--|---|--|---|--|---|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 ② 病気の状態の理解と生活管理 ③ 身体各部の状態の理解と養護 ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 ⑤ 健康状態の維持・改善 | ① 情緒の安定 ② 状況の理解と変化への対応 ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ① 他者とのかかわりの基礎 ② 他者の意図や感情の理解 ③ 自己の理解と行動の調整 ④ 集団への参加の基礎 | ① 保有する感覚の活用 ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 ② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ③ 日常生活に必要な基本動作 ④ 身体の移動能力 ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ① コミュニケーションの基礎的能力 ② 言語の受容と表出 ③ 言語の形成と活用 ④ コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導していく内容 | | | | | |

⑥教育的支援・配慮の指導効果

| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 |
|--|------|--|--|-------|---|
| 9月～10月にかけて学校へ行きたくない気持ちが強くなり欠席が続いた。校外学習など本人の好む学習の時に登校を促していくことで11月以降徐々に登校日数が増えてきた。 | | タブレット端末を使い書字を少なくすることで考えることに集中できた。書かなくてよいという安心感からか音読は配慮を要する必要がなかった。 | やりたい気持ちとできない状況(PM2.5の飛散状況)との折り合いをつけるのが難しかった。継続した指導を行うことができなかったため、体力向上を図ることができなかった。 | | 学習の中でゲームの時間の見直しなどをするとゲーム時間が多すぎること気づくもの。実際にゲーム時間を減らす行動に結びつけることはできなかった。登校前日にはよく寝ようと思える気持ちが出てきた。 |

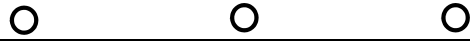
| | | | |
|------------|--------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|
| ⑦教育的ニーズの変容 | A4 意欲・気力(目標が持てない、やる気がおきない) | A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い) | C2 処理能力(書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) |
| | C4 読み・書き(文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | C6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない) | C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない) |
| | C8 経験(生活経験が低い) | D3 動作・体力(体力がない、動きがはやくできない) | F1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い) |

| | | | | |
|--|----|----|-----|-----------------------|
| 小・中・高 | 学年 | 6年 | 障害名 | アレルギー症状・適応障がい・読み書き障がい |
| タイトル(題材名) | | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) PM2.5等に対するアレルギーが有りマスクを着用している。アレルギー反応がひどいときは息苦しさを訴える。夜間の入眠、起床に影響する。抗アレルギー薬を服用している。 読み書き障がいがあり読み書きに強いストレスを感じる。未学習による知識不足から、学習に対する自信が持てない。板書の視写が難しい。指先を用いた細かい動きのコントロールが苦手である。 集団で自分から他者に積極的に働きかけることは難しい。友だちを作りたい気持ちは強いが、会話をして話題を広げることが難しい。 | | | | |

| | |
|-----|--|
| ねらい | 自分の心身の状態変化を理解し、状態に応じて対応することができる。 ビジョントレーニング等により視知覚能力の向上を図る。 様々な場面で自分の気持ちを相手に伝えることができる。 今はできないことでも挑戦しようという気持ちや自信をつけ、自己回復力やセルフイメージを高める。 |
|-----|--|

自立活動でねらうポイント

| | | | | | |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|
| 健康の保持 ① ② ③ ④ ⑤ | 心理的な安定 ① ② ③ | 人間関係の形成 ① ② ③ ④ | 環境の把握 ① ② ③ ④ ⑤ | 身体の動き ① ② ③ ④ ⑤ | コミュニケーション ① ② ③ ④ ⑤ |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|



| | |
|------|--|
| 指導内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学部の生徒や下学年の児童と一緒に簡単なルールのあるゲームをする。 ・大型遊具を使って運動をする。 ・体調をつけるために全身を使った運動をする。(ダンス等) |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・PM2.5による影響で体調を崩しやすく、安定した登校が難しかった。 ・不登校の期間が長く、友達と一緒に遊ぶ経験が不足しており、自発的に関わりを持つことが難しかったが、簡単なルールのあるゲームをする中で、ルールを通して友達とかかわる方法を覚えることで、心理的な抵抗が減っていった。そのため、学校生活の様々な場面で自分から友達に働きかけようとするようになった。集団の自立活動では、他児と積極的に関わる様子が見られた。 ・個別の自立活動では、欠席のため、実施できていない。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えたコミュニケーションの方法の獲得 ・体調の管理 |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
|---------|--|------------------------|------|
| (小)・中・高 | 1・2・3・4・5・6年 | 障害名(病名) | 適応障害 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・ <u>知的障がいの教育課程(知的代替)</u> ・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | ✓ | ✓ |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | ✓ | ✓ |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | ✓ | ✓ |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | ✓ | ✓ |
| A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない) | ✓ | ✓ |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | ✓ | ✓ |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | ✓ | ✓ |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | ✓ | ✓ |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | ✓ | ✓ |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | ✓ | ✓ |
| B2 社会のルールを理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | ✓ | ✓ |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | ✓ | ✓ |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | ✓ | ✓ |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | ✓ | ✓ |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | ✓ | ✓ |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | ✓ | ✓ |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | ✓ | ✓ |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | ✓ | ✓ |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | ✓ | ✓ |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | ✓ | ✓ |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | ✓ | ✓ |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | ✓ | ✓ |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | ✓ | ✓ |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | ✓ | ✓ |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | ✓ | ✓ |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | ✓ | ✓ |
| C8 経験 (生活経験が低い) | ✓ | ✓ |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | ✓ | ✓ |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | ✓ | ✓ |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | ✓ | ✓ |
| D4 多動性 (じっとしてられない、待てない) | ✓ | ✓ |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | ✓ | ✓ |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | ✓ | ✓ |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | ✓ | ✓ |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない) | ✓ | ✓ |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | ✓ | ✓ |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | ✓ | ✓ |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | ✓ | ✓ |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | ✓ | ✓ |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | ✓ | ✓ |

実施日

1回目 2019年 7月 9日(火)
2回目 2019年 12月 24日(火)

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | |
|-------|---|------------------------|------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| 小・中・高 | 1・2・3・4・5・6年 | 障害名(病名) | 適応障害 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいのある教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | |
|-------------|---|---------------------------|--------------------------------------|
| ①教育的ニーズの項目 | A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) | A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い) | B1 集団活動(集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) |
| | B3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない) | B5 家族との関係(家族との関係がうまくいかない) | C3 聞き取り・理解力(話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) |
| | E3 登校・入室への抵抗感(学校へ行きたくない、教室には入れない) | | |
| ②課題の整理 | ・環境の変化や経験のないこと、見通しがもてないことへの不安が強く、登校できなかったり活動に参加できなかったりする。 ・母子関係が安定しておらず、自信のなさや自己肯定感の低さからくる気分の変動が大きい。 | | |
| ③支援・配慮等のねらい | ・視覚的ツールを使って、相談しながら活動内容や時間を決め、見通しをもてるようにすることで、安心して活動に参加できるようにする。 ・学習が成功体験で終わるようにすることで、自尊心を育てる。 ・医療、福祉など関係機関と連携し、母子関係や家庭環境の安定を図る。 | | |

④教育的支援・配慮

| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 |
|--|---|--|-------------|---|-------------|
| (受容期) 試行期 安定期 | (受容期) 試行期 安定期 | (受容期) 試行期 安定期 | 受容期 試行期 安定期 | (受容期) 試行期 安定期 | 受容期 試行期 安定期 |
| A1 本児が話したいときにじっくり聞いたり、イライラしているときに「嫌だったね。」と共感しながら、不安になっている理由を言葉にして伝えたりする。 A9 活動を提案するときには、場所や内容などについて、写真やイラスト、時計等を使って視覚的に提示しながら説明し、見通しをもてるようにする。 そのうえで、参加する内容や順番を、本児と相談しながら選択、決定する。取り組めたときには大いに称賛する。 | B1 学習活動の場所や内容、メンバーを視覚的に示した後、参加方法について確認をとる。その際に「参加しない」という選択肢を設ける。参加する場合も「つらくなったら教室に帰っていいよ。」と伝え、学習中にも確認する。 B3 自分に話し掛けられていることが分かるように、教師は名前を呼び意識を向けてから話し掛ける。 B5 母親の話や心情をよく聞いて、母親の心理状態の安定を図る。また、出席カードを準備して登校した日はシールを貼り、下校時に母親が迎えに来たときに、しっかり称賛してもらおう。 | C3 本児が興味をもち、やってみたいと思えるような活動や教材を設定する。また、児童が聞き取りやすく理解しやすい簡単な言葉を使って、ゆっくりとした口調で話し掛ける。 できたよシールを準備し、活動ごとに称賛の視覚化を図る。 | | E3 9:30~11:00までを登校時間として、精神的に疲れないようにする。また、なじみのある教師や児童と同室で学習する。 | |

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--|---|--|---|--|---|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 ② 病気の状態の理解と生活管理 ③ 身体各部の状態の理解と養護 ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 ⑤ 健康状態の維持・改善 | ① 情緒の安定 ② 状況の理解と変化への対応 ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ① 他者とのかかわりの基礎 ② 他者の意図や感情の理解 ③ 自己の理解と行動の調整 ④ 集団への参加の基礎 | ① 保有する感覚の活用 ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 ② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ③ 日常生活に必要な基本動作 ④ 身体の移動能力 ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ① コミュニケーションの基礎的能力 ② 言語の受容と表出 ③ 言語の形成と活用 ④ コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導していく内容 | | | | | |

⑥教育的支援・配慮の指導効果

| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 |
|--|---|---|-----|---|-------|
| ・視覚的ツールを使って説明することで、活動の場所や内容が分かり、不安や心配材料が減り、「できそう。」「分かった。」と取り掛かれることが多くなった。 ・教師がタイミングよく称賛することで、「できたな。」「分かってきたわ。」など自分を認める言葉を発するようになってきた。 | ・写真やイラスト、時計など視覚的なツールを使った活動内容の説明をよく聞いて理解し、落ち着いて考え「1回だけする。」「やめとくわ。」などと答えることができるようになった。 ・シールを貼り、母親に見せて褒めてもらうことで、母子ともに表情が和らぎ自己肯定感を高めることができた。 | ・園や体育など、本児が得意意識をもつ教科を中心に学習活動を設定することで、「やってみる。」「早くやりたい。」などと言って自分から積極的に取り組むことができた。 | | ・玄関や廊下などに人通りが少ない時間に登校することで、不安材料が減り登校しやすくなった。 ・登校時間を短くすることで、本児にとって精神的にも肉体的にも適度な学習時間となり、「疲れ」が欠席することが減ってきた。 | |


| | | | |
|------------|-------------------------------------|---------------------------|--------------------------------------|
| ⑦教育的ニーズの変容 | A1 不安・悩み(不安が強い、悩みが頭から離れない) | A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い) | B1 集団活動(集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) |
| | B3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない) | B5 家族との関係(家族との関係がうまくいかない) | C3 聞き取り・理解力(話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) |
| | E3 登校・入室への抵抗感(学校へ行きたくない、教室には入れない) | | |

| | | | | |
|-------------------|---|----|-----|------|
| ①・中・高 | 学年 | 2年 | 障害名 | 適応障害 |
| タイトル(題材名) | 安心して学校に通うために(分かって自分の意思を伝えるためのアプローチ) | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | 昨年度、小学校に入学後なじめず5月の連休以降不登校になる。9月に本校に転入する。30分の登校から始めて午前中登校できるようになったが、今年度になり担任や教室をはじめ周りの環境が大きく変わったことが受け入れられず、不登校になる。6月以降、欠席しながらも少しずつ登校できるようになっている。環境の変化や経験のないこと、見通しがもてないことへの不安が強く、登校できなかったり活動に参加できなかったりする。また、母子関係が安定しておらず、自信のなさや自己肯定感の低さからくる気分の変動が大きい。常に「失敗したらどうしよう。」という不安意識が強い。 | | | |

| | |
|-----|---|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的ツールを使って、相談しながら活動内容や時間を決め、見通しをもてるようにすることで、安心して活動に参加できるようにする。 ・学習が成功体験で終わるようにすることで、自尊感情を育てる。 |
|-----|---|

自立活動でねらうポイント

| | | | | | |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|
| 健康の保持 ① ② ③ ④ ⑤ | 心理的な安定 ① ② ③ | 人間関係の形成 ① ② ③ ④ | 環境の把握 ① ② ③ ④ ⑤ | 身体の動き ① ② ③ ④ ⑤ | コミュニケーション ① ② ③ ④ ⑤ |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|

| | |
|------|---|
| 指導内容 | <p>①活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登校時に、時計とイラストを使って教師が説明する「今日の下校時刻」について、母親と一緒に聞く。(写真) ・下校時刻を理解したら、母親とタッチをして別れる。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとに、学習前に教師が説明する「活動の場所や内容、メンバー」について聞く。 ・学習への参加方法を、教師と一緒に相談しながら決める。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下校の際には出席カードにシールを貼り、迎えに来た母親に見せてしっかり称賛してもらう。  <p>②ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下校時刻や活動内容を提案するときには、写真やイラスト、時計などを使って視覚的に提示しながら説明し、分かりやすくする。 ・相談しながら活動内容や時間を決め、見通しをもてるようにすることで、安心して活動に参加できるようにする。 ・本児が決めた参加方法は、どのような形態であっても、自分で決められたことを認めて次につなげる。 ・活動内容に対して、参加方法を決めるときには、「参加しない」という選択肢も設ける。また、学習に取り掛かった後も、「しんどい。」「教室に帰りたい。」など本児が訴えた場合、聞き入れて参加方法を変更する。その際、自分から言えたことを評価する。 ・本児が興味をもち、やってみたいと思えるような活動や教材を設定する。また、本児が聞き取りやすく理解しやすい簡単な言葉を使って、ゆっくりとした口調で話し掛ける。 ・まずは登校できるよう、玄関や廊下などの人通りが少ない9:30~11:00までを登校時間として、精神的に疲れないようにする。また、なじみのある教師や児童と同室で学習する。 ・出席カードやシールなど、称賛の視覚化を図り、教師がしっかり褒めることで、自己肯定感や自己有用感を高める。 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・視覚的ツールを使って説明することで、活動の場所や内容が分かり、不安や心配材料が減り、「できそう。」「できるかも。」と取り掛かれることが多くなった。また、参加途中でつらくなったときに、自分から教師を呼んで「教室に帰っていいかな。」と尋ねることができた。 ・教師がタイミングよく称賛することで、「できたな。」「分かってきたわ。」など自分を認める言葉を発するようになってきた。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・登校時間を延ばしたり、活動量を増やしたりするなど、次の段階への見極めが難しい。 ・引き続き、今後も医療、福祉など関係機関と連携し、母子関係や家庭環境の安定を図ることが最重要である。 |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。
 (教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。
 ※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | | |
|-------|---|------------------------|------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| ①・中・高 | 1・2・3・4・⑤・6年 | 障害名(病名) | 気分障害 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程 準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | | |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | ✓ | ✓ |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | | |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | | |
| A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない) | | |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | | |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | ✓ | ✓ |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | ✓ | ✓ |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | | |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | | |
| B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | | |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | | |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | ✓ | ✓ |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | | |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | | |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | | |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | | |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | | |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | | |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | | |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | | |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | | |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | ✓ | |
| C8 経験 (生活経験が低い) | ✓ | ✓ |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | ✓ | ✓ |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | | |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | | |
| D4 多動性 (じっとしていられない、待てない) | | |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | | |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | | |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | ✓ | ✓ |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室にはいれない) | | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | ✓ | ✓ |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | | |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | | |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | ✓ | |

実施日

| | | | |
|-----|-------|----|--------|
| 1回目 | 2019年 | 5月 | 31日(金) |
| 2回目 | 2020年 | 1月 | 21日(火) |

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | |
|-------|---|------------------------|------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| 小・中・高 | 1・2・3・4・5・6年 | 障害名(病名) | 気分障害 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | | | |
|---|--|---------------------------------|-----------------------------------|----------------------|--|
| ①教育的ニーズの項目 | A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | A7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | A8 気分の変動(気分の浮き沈みがある) | | |
| | B4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | F1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | | |
| ②課題の整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・苦手な教科になると「だるい」「ねむい」と言って授業に集中できないことが多い。 ・生活リズムが不安定で遅刻が多い。 ・集中すぎて疲れ切ってしまうことがある。 ・相手の気持ちや立場、状況を考えずに発言をすることがある。 ・思ったことを独り言のように言い続けることがある。 | | | | |
| ③支援・配慮等のねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちや場面の状況を考えて行動することができる。 ・体調や気分が悪い時の調整方法や適切な態度を身に付ける。 | | | | |
| ④教育的支援・配慮 | | | | | |
| A心理 受容期 (試行期) 安定期 ・好きな活動を複数用意して楽しい気持ちになるようにする。 ・活動を途中で止めたり、変更したりすることが出来ることを伝える。 ・友達や教師とゲームを行い、勝ち負けを気にしなかったり友達を励ましたりするなど望ましい行動を称賛する。 | B社会性 受容期 (試行期) 安定期 ・望ましい話し方や行動をした時はすぐに褒める。 ・事前に手本を示す。 ・すぐに振り返りをし、相手の気持ちを確認したり、望ましい伝え方や行動を確認したりする。 | C学習 受容期 試行期 安定期 | D身体 受容期 試行期 安定期 | E学校生活 受容期 試行期 安定期 | F自己管理 受容期 試行期 安定期 ・体調や睡眠時間、前日下校後の過ごし方について聞き取り、生活リズムを把握する。 ・体調を見ながら活動量を調整したり、適宜休憩を入れたりする。 ・得意な活動や興味のある活動を多く取り入れる。 ・1時間目に興味のある活動を設定して起床や登校時刻の意識づけを図る。 |

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--------------------|------------------------------|---------------|------------------------------------|----------------------|---------------------|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 | ① 情緒の安定 | ① 他者とのかかわりの基礎 | ① 保有する感覚の活用 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 | ① コミュニケーションの基礎的能力 |
| ② 病気の状態の理解と生活管理 | ② 状況の理解と変化への対応 | ② 他者の意図や感情の理解 | ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 | ② 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 | ② 言語の受容と表出 |
| ③ 身体各部の状態の理解と養護 | ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ③ 自己の理解と行動の調整 | ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 | ③ 日常生活に必要な基本動作 | ③ 言語の形成と活用 |
| ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 | | ④ 集団への参加の基礎 | ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 | ④ 身体の移動能力 | ④ コミュニケーション手段の選択と活用 |
| ⑤ 健康状態の維持・改善 | | | ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導していく内容 | | | | | |

| ⑥教育的支援・配慮の指導効果 | | | | | |
|--|---|-----|-----|-------|---|
| A心理 ・授業後半の好きな活動を励みにするだけでなく、学習そのものを楽しみに取り組むことが増えてきている。 ・勝ちたい気持ちは強く、負けると落ち込むことはあるが、負けても自分で切り替えることが少しずつ増えてきている。 | B社会性 ・上目線や厳しい言い方の時はその都度相手の気持ちや望ましい話し方を示すことで、友達への優しい言葉掛けが少しずつ増えてきている。 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 ・行事前や行事当日は1時間目に登校することが続いたが、ほとんどは起床や登校時刻は不安定であった。好きな活動を設定しても難しいことが多い。 |

| | | | |
|------------|------------------------------------|---------------------------------|----------------------|
| ⑦教育的ニーズの変容 | A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | A7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | A8 気分の変動(気分の浮き沈みがある) |
| | B4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | F1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | |

| | | | | |
|-------------------|--|----|-----|------|
| ④・中・高 | 学年 | 5年 | 障害名 | 気分障害 |
| タイトル(題材名) | わたしはなに?ゲーム | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | <ul style="list-style-type: none"> 相手の気持ちや状況を考えず、思ったことをすぐ発言してしまう。 言われた質問に答えられない、友達が指示通りに動かないなど自分の思い通りにならないと、独り言が続いたりイライラしたりすることがある。 集中しすぎて、疲れ切ってしまうことがある。 | | | |

| | | | | | |
|--------------|---|---------|-----------|-----------|-----------|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ①相手の気持ちや状況を考えて言動することができる。 ②友達を優しい言葉で応援したり励ましたりすることができる。 ③順位や間違いにこだわらず、友達と仲よくゲームに参加することができる。 | | | | |
| 自立活動でねらうポイント | | | | | |
| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
| ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ | ① ② ③ ④ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ |

| | |
|------|---|
| 指導内容 | <p>①活動概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師が児童の頭に絵カードを付ける(児童は自分の絵カードが分からない)。 挙手し、教師に呼名されたら、友達の名前を呼び、質問する。友達に呼名されたら返事をし、質問に答える。 自分の絵カードが何か分かったら挙手し、教師に呼名されたら「わたしは〇〇です。」と答える。 友達が質問の返答に困っていたり、友達の答えが間違っていたりしたら、応援したり励ましたりする。 <p>②ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> やり方やルール、話し方を掲示し、ゲーム前に確認するところ。 友達を優しい言葉で励ましたり、応援したりしていたらすぐ称賛するところ。 <p>③留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師もゲームに参加し、手本を示す。 質問に答える役でないのに答えた時は、「今は、〇〇さんが質問に答えます。」と伝える。 友達に対してイライラしている様子が見られたら、友達を応援する手本を示したり、「いい質問を考えているんだよ」「大丈夫、もうすぐ答えるよ」など安心するような言葉掛けをする。 質問や答えが思い浮かばずイライラしている様子が見られたら、「ゆっくりでいいよ」「間違っても大丈夫」など安心するような言葉掛けをする。 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> 何度も解答が間違ったり自分だけ正解できなかつたりした時、焦る様子が見られ独り言も言っていたが、友達や教師に積極的に質問をしてヒントをもらい、自分の考えを発表していた。 正解できなくてもゲームに最後まで取り組み、授業終了後に落ち込んだり疲れて動かなくなったりすることはなかった。 質問に答えられず困っている友達に、「大丈夫だよ」と優しく言葉掛けすることが何度かあった。 本学習以外の場面で、質問したい人がメモをしていると別な人に質問しようとしていて、状況を考えて行動する様子が見られた。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> 質問の答えを考えている友達を待たずに、厳しいことを言う。 相手の立場を考えず、上目線の話し方をする。 思っていることを心の中に止めていることが難しく、しゃべり続ける。 |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | | |
|-------|---|------------------------|---------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| ①・中・高 | 1・2・3・4・⑤・6年 | 障害名(病名) | 反抗挑戦性障害 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | ✓ | |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | ✓ | ✓ |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | ✓ | |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | | |
| A5 自己理解 (何が辛いのが自分でもわからない) | ✓ | |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | ✓ | ✓ |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | ✓ | |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | ✓ | ✓ |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | ✓ | ✓ |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | ✓ | |
| B2 社会のルールを理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | ✓ | ✓ |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | | |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | ✓ | |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | ✓ | |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | ✓ | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | | |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | | |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | | |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | | |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | ✓ | |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | ✓ | ✓ |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | | |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | ✓ | ✓ |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | ✓ | |
| C8 経験 (生活経験が低い) | ✓ | ✓ |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | ✓ | |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | | |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | | |
| D4 多動性 (じっとしていられない、待てない) | ✓ | ✓ |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | ✓ | ✓ |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | | |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | | |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室にはいれない) | | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | | |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | ✓ | ✓ |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | ✓ | |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | ✓ | |

実施日

1回目 1年 7月 17日(水)
2回目 1年 12月 12日(木)

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考へて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | |
|-------|---|------------------------|---------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| 小・中・高 | 1・2・3・4・ 5 ・6年 | 障害名(病名) | 反抗挑戦性障害 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | | | |
|---|---|---|---|-------------|-------------|
| ①教育的ニーズの項目 | A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | C8 経験(生活経験が低い) | A7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | | |
| | A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い) | C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない) | D5 感覚過敏(においに敏感、大きな音が嫌) | | |
| | A5 自己理解(何が辛いのか自分でもわからない) | D1 身体状況・体調(お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | B1 集団活動(集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | | |
| ②課題の整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・ドキドキする、イライラする、怖い、びっくした、悲しいなどの気持ちを衝動的に人や物を叩く、物を投げる、暴言などで表現する。 ・ごく簡単なことに関しても失敗したことや負けたことに苛立ち、「死ぬ」「殺す」などの暴言を言ったり、叩く蹴るなどの行動を示す。暴言は身近な大人に対することが多いが、時に他の児童や初対面の人に言うこともある。 ・自力排便せず漏便する、着替えを一人でできないなど、生活面での課題が多い。特定の大人の支援しか受け入れようとしない。 ・音、匂い、光などに敏感で、嫌な刺激に対しては怒りや暴言で表現する。 | | | | |
| ③支援・配慮等のねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉で表現できるようにする。 ・行動の振り返りを行い、人を叩くことや「死ぬ」などの暴言が、違う言葉で表現することが適切であることを理解できるようにする。乱暴な言い方でも、自分の気持ちを表現できているのであれば評価し、話して伝えることができるようにする。 ・過敏によって活動に支障が出ると予想されるときには、本人と事前に対応策を考える。 ・排便間隔や体調への意識化を図るようにする。 ・リラクセスを目的としたマッサージ、体操を取り入れる。 ・自己肯定感の向上に取り組む。 | | | | |
| ④教育的配慮、支援 | | | | | |
| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 |
| 受容期 試行期 安定期 ・驚き、興奮なども怒りで表現することが多く、大人が気持ちを代弁したり確認したり、ことで自分から言語化し、意識できるようにする。A2 ・衝動性、怒りのコントロールはまだ難しいため、怒りを増長させる言葉を言い換えることで怒りの気持ちをそらすことを重点的に行う。A2 ・行動の振り返りの際は、怒りの感情をフラッシュバックさせることがあるため、細心の注意を払う。乱暴な言い方であっても、自分の気持ちを表現できているのであれば評価する。A5 | 受容期 試行期 安定期 ・怒りの矛先を不特定多数の人に向けないよう、集団の場での振る舞いを考える。A2 ・周囲の人に対する行動や言葉遣いを考える。B1 | 受容期 試行期 安定期 ・学習の内容や時間配分の工夫を行う。C7 ・抵抗感のある教科に関しては本人の気持ちを代弁できる教員も指導に入る。C7 | 受容期 試行期 安定期 ・排便のあった日にシールを貼る排便への意識化を図る。D1 ・音や光、においに過敏になっている時には事前に対応策を考える。D5 ・排便を促すことやリラクセスをねらいとしたマッサージを行う。D1 | 受容期 試行期 安定期 | 受容期 試行期 安定期 |

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--|---|---|---|---|---|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 ② 病気の状態の理解と生活管理 ③ 身体各部の状態の理解と養護 ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 ⑤ 健康状態の維持・改善 | ① 情緒の安定 ② 状況の理解と変化への対応 ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ① 他者とのかわり合いの基礎 ② 他者の意図や感情の理解 ③ 自己の理解と行動の調整 ④ 集団への参加の基礎 | ① 保有する感覚の活用 ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 ② 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 ③ 日常生活に必要な基本動作 ④ 身体の移動能力 ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ① コミュニケーションの基礎的能力 ② 言語の受容と表出 ③ 言語の形成と活用 ④ コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導していく内容 | | | | | |

| ⑥教育的支援・配慮の指導効果 | | | | | |
|---|--|--|-------------------------------|-------|-------|
| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 |
| ・自己理解を進めるための行動の振り返りでは、以前は怒りが再燃していたが、現在は自分自身を振り返る活動ができてきている。 | ・友達や指導者に対する不適切な行動や暴言は、自分なりに言い換えることができてきた。乱暴な言い方であっても自分の気持ちを言うことができてきている。 | ・担任や自分に近い指導者が授業に入ること、学習に参加することができている。 ・授業の要点を示したプリントやワークシートを活用すること、授業時間を短く区切ることで集中して取り組むことができてきた。 | ・漏便の不快感を感じ、自分から処理を依頼することができた。 | | |

| | | | |
|------------|------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| ⑦教育的ニーズの変容 | A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | C8 経験(生活経験が低い) | B1 集団活動(集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) |
| | A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い) | D1 身体状況・体調(お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | |
| | A7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | D5 感覚過敏(においに敏感、大きな音が嫌) | |

| | | | | |
|-------------------|--|----|-----|---------|
| 小・中・高 | 学年 | 5年 | 障害名 | 反抗挑戦性障害 |
| タイトル(題材名) | 「どう言えば良いのかな」 | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | <ul style="list-style-type: none"> ・ドキドキする、イライラする、怖い、びっくりしたなどの気持ちを、人や物を叩く、物を投げる、暴言などで表現している。 ・「死ね」「殺す」などの暴言を何度も言う。身近な大人に対することが多いが、時に他の児童に向かうこともある。 | | | |

| | |
|-----|---|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを表現するいろいろな言葉があることを知る。 ・暴言(不適切な表現)を別の言い方で表現してみる。 |
|-----|---|

自立活動でねらうポイント

| | | | | | |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|
| 健康の保持 ① ② ③ ④ ⑤ | 心理的な安定 ① ② ③ | 人間関係の形成 ① ② ③ ④ | 環境の把握 ① ② ③ ④ ⑤ | 身体の動き ① ② ③ ④ ⑤ | コミュニケーション ① ② ③ ④ ⑤ |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|

| | |
|------|---|
| 指導内容 | <p>①なんて言えば良いのかな 「本当は怒りたくない」自分。でも、怒ってしまう。以下のことを通してどうしたらいいのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒ったり、暴れたりしているときの自分の気持ちを振りかえる。 ・怒ったり、暴れたりすることが、「びっくりした」「静かにしてほしい」「やりたくない」「負けたくない」など言葉で言い換えられるものであることを知る。 <p>②怒ってしまったときの行動をどう振り返るか ・相手を叩く、ものを投げる(壊す)、死ね・殺すと言う、泣いて大きい声を出す、「うるさい」と大声で騒ぐ、その場からいなくなる、言葉で伝える等の 具体的な例を示し、より望ましいものを考えさせる。やや乱暴な言い方であっても、自分を表現できていることを認めていく。 伝える。(物を投げる(壊す)、他者をたたく→「死ね」「殺す」→「うるさい」→「静かにしてください」)</p> <p>③実際場面を通して、①②の活用を考えてみる ・「遊んでいる時に競争場面ではないのに、本人が負けたと思込み、友達を突き飛ばした」事を取り上げ、どのように行動すれば良かったかを考える。</p> |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・「誰も比べていないのにぼくが勝手に人と比べてしまうんだ」と自分自身のことを話すことがあった。 ・自分の行動を客観的に振り返る発言が見られてきた。 ・「『うるさい』と言うことは『死ね』『殺す』と言うことと同じくらい悪いことだと思っていた、とのことであった。「うるさい」は言い方は悪いが気持ちを伝える点で評価できることを理解することができた。 ・実際の指導場面で、指導者を叩いてしまったときなどに、自分から気づいて「〇〇したかった」と言葉で表現しようとする様子が見られた。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・言葉で自分の気持ちを伝えることが大事だということは理解できてきている。しかし、びっくりしたときなどに身近な大人を叩いてしまったり、大事なものであっても物を投げて壊してしまうなど、依然として衝動性が抑えられない。衝動的な行動をしてしまう自分に対する自己理解をすすめるとともに、イライラすることが予想される場面ではそれらを回避する方法を伝える必要がある。 ・実際場面を取り上げた指導が効果的だと思われるが、怒りの感情を思い出さないような注意が必要であり、活動時間や内容に工夫が必要である。 ・「死ね」「殺す」は不安の表れであることも多い。具体的な言い方をより多く提示し、適切な言い方、あるいは社会的に容認される言い方を |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | | |
|-------|---|------------------------|----------------------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| ①・中・高 | 1・2・3・④・5・6年 | 障害名(病名) | 広汎性発達障がい・高機能自閉症・ADHD |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ざる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | | |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | ✓ | |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | ✓ | ✓ |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | | |
| A5 自己理解 (何が辛いのが自分でもわからない) | | |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | ✓ | |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | ✓ | ✓ |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | ✓ | ✓ |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | ✓ | ✓ |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | | |
| B2 社会のルールを理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | | |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | | ✓ |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | ✓ | |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | | |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | | |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | ✓ | ✓ |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | | |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | | |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | | |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | ✓ | |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | | |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | ✓ | ✓ |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | | |
| C8 経験 (生活経験が低い) | ✓ | ✓ |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | | |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | ✓ | |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | ✓ | ✓ |
| D4 多動性 (じっとしていられない、待てない) | | |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | ✓ | ✓ |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | | |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | ✓ | ✓ |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室にはいれない) | | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | ✓ | ✓ |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | ✓ | ✓ |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | | |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | ✓ | ✓ |

実施日

| | | | |
|-----|----|----|--------|
| 1回目 | 1年 | 7月 | 19日(金) |
| 2回目 | 2年 | 1月 | 24日(金) |

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | |
|-------|---|------------------------|----------------------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| 小・中・高 | 1・2・3・④・5・6年 | 障害名(病名) | 広汎性発達障がい・高機能自閉症・ADHD |
| 教育課程 | 準ずる教育課程 → 準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | | | | |
|---|--|---|---|----------------------|---|--|
| ①教育的ニーズの項目 | A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | B9 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない) | D2 巧緻性(手先を使って操作することが指示通りできない) | | | |
| | A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない) | B10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない) | F1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | | | |
| | A7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | C6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない) | F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | | | |
| ②課題の整理 | A2 A7 F5 自分の思い通りに行かない、友達に注意されるのが耐えられない、負けたくない、したくないがしなくてはならないことがあると大きな声を出す。泣く。 A6 優しさや思いやりからの発言であるが、相手の気に触るような言い方になってしまう。 B3 人の話を聞くよりは自分の話したいことを聞いてもらいたい気持ちが強く、自分だけがずっと話したり、同じ話を繰り返したりする。 B10 友だちが他のことをしていても、自分の興味のある話を繰り返して、相手が聞いていないと、自分のほうを向くまで呼び続けたり、泣いたり怒ったりする。 C6 学習中に友だちに教師がアドバイスしているときに話しに入ってきて自分の課題がおろそかになる。また、手のさかむけや消しゴムのかすの集める場所が気になる。 D2 書字やはさみを使った作業などが苦手である。 F1 家でメディアに触れる時間が長く、家庭のルールを守れない。朝起きてからのスケジュールがなかなか身につかない。 | | | | | |
| ③支援・配慮等のねらい | ○我がままを我慢できたときは賞賛する。クラスの友だちには注意するのほしほやくめてもらい、注意は教師が行うようにする。やる気の出る課題から準備し課題をスモールステップアップさせていく。 ○適切な発言の仕方をその都度アドバイスする。SSTを行う。 ○相手の気持ちを教師が代替する。同じ人と同じ話題は3回までなど具体的な数値を決める。 ○課題を与える前に「人のアドバイスに横から口を挟まない」などの約束をしてから課題に取り掛かるようにする。さかむけに絆創膏をはるなどする。消しゴムのカス…。 ○書字の負担を減らす。手指訓練を行う。 ○家庭でメディア使用時間チェック表などを活用してもらう。 | | | | | |
| ④教育的支援・配慮 | | | | | | |
| A心理 受容期 (試行期) 安定期 相談できる関係作りを行う。 クールダウンできる場所をつくる。 | B社会性 受容期 (試行期) 安定期 適切な発言の仕方をその都度アドバイスする。SSTを行う。 | C学習 受容期 (試行期) 安定期 自分の課題をするように声をかける。 | D身体 受容期 (試行期) 安定期 書字作業を少なくするとともに、手指訓練を行う。 | E学校生活 受容期 試行期 安定期 | F自己管理 受容期 (試行期) 安定期 個人懇談、通信、連絡帳で家庭と連携を取り合い、望ましい生活習慣が身につくように、家庭に協力を依頼する。 | |

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--------------------|------------------------------|---------------|------------------------------------|-----------------------|---------------------|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 | ① 情緒の安定 | ① 他者とのかかわりの基礎 | ① 保有する感覚の活用 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 | ① コミュニケーションの基礎的能力 |
| ② 病気の状態の理解と生活管理 | ② 状況の理解と変化への対応 | ② 他者の意図や感情の理解 | ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 | ② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 | ② 言語の受容と表出 |
| ③ 身体各部の状態の理解と養護 | ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ③ 自己の理解と行動の調整 | ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 | ③ 日常生活に必要な基本動作 | ③ 言語の形成と活用 |
| ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 | | ④ 集団への参加の基礎 | ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 | ④ 身体の移動能力 | ④ コミュニケーション手段の選択と活用 |
| ⑤ 健康状態の維持・改善 | | | ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導していく内容 | | | | | |

| ⑥教育的支援・配慮の指導効果 | | | | | |
|---|--|---|--|---|--|
| A心理 心理的に落ち着きクールダウンする場所はほとんど使わなくてよくなった。 | B社会性 ・行事で他の生徒とかかわる機会があっても、以前ほど苦手意識がなくなっている。経験を重ね、自信が備わってきている。 | C学習 落ち着いて学習できることが増えた。 書字のスピードが上がった。 学習中に気が散り、自分の話したいことを話出すことがある。 | D身体 朝のランニングや縄跳びなど、毎日の運動に取り組ませることで体力が向上した。 | E学校生活 まだまだ、自分のペースで動いてしまい、時間に遅れてしまうことが多い。 | F自己管理 時間の感覚を捉えさせるのが難しく、タイマーを使用したりこまめな声掛けなどを続けたりしているが、時間を守れないことが多い。望ましい生活習慣について指導するが家庭での実践が難しい場合が多い。 |

| | | | |
|------------|------------------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------|
| ⑦教育的ニーズの変容 | A3 こだわり(一つのことにとどまると他のことが考えられない) | B9 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない) | F1 睡眠・生活リズム(朝起きられず遅刻してしまうことが多い) |
| | A7 情緒の安定(嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | B10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない) | F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) |
| | B2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | C6 注意・集中(集中が続かない、気が散って集中できない) | |

| | | | | |
|-------------------|---|----|-----|----------------------|
| 小・中・高 | 学年 | 4年 | 障害名 | 広汎性発達障がい・高機能自閉症・ADHD |
| タイトル(題材名) | こんなときどうする | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | 自分の話したいことばかりを話し続ける。 クラスメイトの注意は受け入れられないのに、人のことばかり注意する。 相手の気持ちを考えようとする姿勢はみられるが、言葉かけがずれていてコミュニケーションがうまくいかない。 | | | |

| | |
|-----|---|
| ねらい | 自分の行動を振り返り、適切な行動について考えることができるようにする。 自分の気持ちや考えを整理できる。 整理した気持ちや考えの伝え方を考えることができるようにする。 |
|-----|---|

自立活動でねらうポイント

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|-----------|--------|---------|-----------|-----------|-----------|
| ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ | ① ② ③ ④ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ |

| | |
|------|---|
| 指導内容 | ○自己理解を深める。 ○気持ちの表現方法 ○TPOに応じた人の関わりあい方、接し方 ○相手や場所に応じた話し方・接し方。 |
| 成果 | 学校生活全般を通して、指導を行うことで、言葉遣いや話しかけ方などのスキルの向上がみられた。 |
| 課題 | SSTなどでその場にふさわしい対応などを考えることはできるが、自分のこととして捉え、実際の場面で対応するまでの力に至っていない。 学習中に気が散り、自分の話したいことを話し出すことがある。 |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | | |
|-------|---|------------------------|-------------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| ①・中・高 | 1・2・3・④・5・6年 | 障害名(病名) | 自閉症スペクトラム障害 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ざる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | ✓ | |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | ✓ | |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | ✓ | |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | ✓ | |
| A5 自己理解 (何が辛いのが自分でもわからない) | | |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | ✓ | |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | ✓ | |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | ✓ | |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | ✓ | |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | ✓ | |
| B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | ✓ | |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | ✓ | |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | ✓ | |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | ✓ | |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | ✓ | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | ✓ | |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | ✓ | |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | ✓ | |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | ✓ | |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | | |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | | |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | | |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | ✓ | |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | ✓ | |
| C8 経験 (生活経験が低い) | ✓ | |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | | |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | | |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | ✓ | |
| D4 多動性 (じっとしてられない、待てない) | ✓ | |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | ✓ | |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | ✓ | |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | | |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室にはいれない) | ✓ | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | ✓ | |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | | |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | ✓ | |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | ✓ | |

実施日

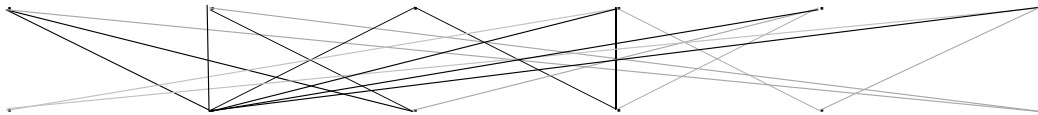
1回目 2018年 7月 3日(火)
2回目 年 月 日()

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変更シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考えて、「わらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のわらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | |
|-------|---|------------------------|-------------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| 小・中・高 | 1・2・3・4・5・6年 | 障害名(病名) | 自閉症スペクトラム障害 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | | | |
|---|--|--|---|--|--|
| ①教育的ニーズの項目 | A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | D4 多動性(じっとしていられない、待てない) | | | |
| | B1 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない) | E1 見直し(予定の変更を受け入れられない) | | | |
| | C7 学習への意識(嫌いな教科に出たくない) | F5 ストレスへの対処(ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | | | |
| ②課題の整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・困った時や苛々した時に感情が急激に変化し、暴力をふるったり、暴言を言ったりする。 ・子ども同士の適切な関係を気づくことが難しい。 ・苦手な学習に出席できない。 ・待つことができない。 ・予定の変更を受け入れることができず、苛々したり、暴言を言ったりする。 ・苦手と思うことは最初から取り組もうとしない。 | | | | |
| ③支援・配慮等のわらい | <ul style="list-style-type: none"> ・一人になりクールダウンできる場所へ行き、気持ちが落ち着くまで過ごす。 ・事前に集団活動に参加する時間、活動内容を知らせる。 ・好きな学習を中心に課題を下げで行う。 ・落ち着いて取り組める好きな活動を得意とする。 ・どんなことも事前に内容、終了時間を丁寧に説明する。 ・興味の持てることや、楽しくできることを繰り返す。 | | | | |
| ④教育的支援・配慮 | | | | | |
| A心理 (受容期) 試行期 向上期 ・困っていることや心配していることがあるときは、教員に伝えるように繰り返し伝える。 | B社会性 (受容期) 試行期 向上期 ・関係の悪い児童とは距離を取らせる。 | C学習 (受容期) (試行期) 向上期 ・参加しづらい学習は、見学でもよいことを伝えておく。 | D身体 (受容期) 試行期 向上期 ・落ち着いて授業に参加できるよう、本児にあった課題に取り組ませる。 | E学校生活 (受容期) 試行期 向上期 ・不安を持たせないよう、長期の予定は説明せず、翌日、翌々日の予定を丁寧に伝える。 | F自己管理 (受容期) 試行期 向上期 ・午後の授業はリラックスできる時間とし、決められた場所で作業など好きな活動をさせる。 |



| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--------------------|------------------------------|---------------|------------------------------------|----------------------|---------------------|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 | ① 情緒の安定 | ① 他者とのかかわりの基礎 | ① 保有する感覚の活用 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 | ① コミュニケーションの基礎的能力 |
| ② 病気の状態の理解と生活習慣 | ② 状況の理解と変化への対応 | ② 他者の意図や感情の理解 | ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 | ② 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 | ② 言語の受容と表出 |
| ③ 身体各部の状態の理解と養護 | ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ③ 自己の理解と行動の調整 | ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 | ③ 日常生活に必要な基本動作 | ③ 言語の形成と活用 |
| ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 | | ④ 集団への参加の基礎 | ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 | ④ 身体の移動能力 | ④ コミュニケーション手段の選択と活用 |
| ⑤ 健康状態の維持・改善 | | | ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導していく内容 | | | | | |

| ⑥教育的支援・配慮の指導効果 | | | | | |
|--|--|-----------------------------------|---|---------------------------------------|---|
| A心理 ・授業中に友だちへの不満を教員に口頭で伝えることができるようになった。 | B社会性 ・トラブルを起こしやすい相手と学習グループを分けたことで、苛々することが減った。 | C学習 ・体育等の集団活動は決められた見学場所で見学できた。 | D身体 ・本児が取り組みやすい内容まで参加するようにしたこと、で、苦手な授業に対する抵抗感は減った。 | E学校生活 ・先のことを考えすぎて不安になり、苛々することは減った。 | F自己管理 ・決められた時間に自分の好みの活動を行うことで午後の登校は安定した。 |

| | | | | |
|------------|------------------------------------|------------------------|--|--|
| ⑦教育的ニーズの変容 | A2 感情のコントロール(気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | E1 見直し(予定の変更を受け入れられない) | | |
| | B1 集団活動(集団の中に入ると疲れる、ルールに従えない) | | | |
| | D4 多動性(じっとしていられない、待てない) | | | |

| | | | | |
|-------------------|--|----|-----|-------------|
| ①・中・高 | 学年 | 4年 | 障害名 | 自閉症スペクトラム障害 |
| タイトル(題材名) | 学校生活全体を通した中での自立活動の取り組みについて | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | <ul style="list-style-type: none"> ・こだわりが強く、行動を自ら狭めてしましやす。 ・子ども同士の適切な対人関係を築くことが難しい。 ・感情が急激に変化し、友達に暴言を言ったり、暴力を振るったりすることがある。 ・予定の変更や環境の変化が苦手である。 | | | |

| | |
|-----|--|
| ねらい | <ul style="list-style-type: none"> ・思い通りにならなくても苛々せずに、学校生活を送ることができる。 ・集団の雰囲気に合わせて、集団活動に慣れたりすることができるように、友達や教員とかかわりながら、活動に参加することができる。 |
|-----|--|

自立活動でねらうポイント

| | | | | | |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|
| 健康の保持 ① ② ③ ④ ⑤ | 心理的な安定 ① ② ③ | 人間関係の形成 ① ② ③ ④ | 環境の把握 ① ② ③ ④ ⑤ | 身体の動き ① ② ③ ④ ⑤ | コミュニケーション ① ② ③ ④ ⑤ |
|--------------------|-----------------|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|

| | |
|------|---|
| 指導内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・集団活動の場所で見学できたらよいことを、図を提示しながら説明する。 ・苦手な授業の前には、参加できそうな活動を話し合い、あらかじめ見学場所を設定する。 ・子ども同士で遊んだ経験が「楽しい」と感じ取ることができるように、教員が間に入りながら簡単なゲームなどで遊ぶ経験を積み重ねる。 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・気分的に疲れたときは、休憩スペースを利用するなど、自分のペースを考えながら、学校生活を送ることができた。 ・参加できそうな活動内容をあらかじめ考え、適宜見学をして、楽しみながら活動できた。自立活動の時間に取り組んだトランポリンの順番を決めるときには、自分の意見を伝え、教員が間に入りながら話し合うことができた。 ・自立活動の時間に取り組んだスクーターボードの活動を好み、教員、友だちの3人で楽しく、活動することができた。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・前籍校に復籍後は、本児にかかわる大人を中心とした配慮と環境設定がかなり必要となるため、継続的な支援が必要であることを周囲に理解させることが必要となる。 ・放課後等デイサービスの事業所が少ないなど、地域で受けることができる福祉サービスが限られているため、医療や福祉機関と連携し、将来をも見越して計画的なサービス利用と早期に検討する必要がある。 |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。
 (教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別的教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。
 ※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | | |
|---------|---|------------------------|-----------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| (小)・中・高 | 1・2・3・4・5・(6)年 | 障害名(病名) | 自閉スペクトラム症 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | ✓ | |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | | |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | | |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | ✓ | |
| A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない) | | |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | ✓ | ✓ |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | | |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | | |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | ✓ | ✓ |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | | |
| B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | | |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | | |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | ✓ | ✓ |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | ✓ | ✓ |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | ✓ | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | | |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | ✓ | ✓ |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | ✓ | ✓ |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | | |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | | |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | | |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | | |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | | |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | | |
| C8 経験 (生活経験が低い) | | |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | | |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | | |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | ✓ | ✓ |
| D4 多動性 (じっとしていられない、待てない) | | |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | | |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | | |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | | |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室には入れない) | ✓ | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | | |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | | |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | | |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | ✓ | |

実施日

| | | | |
|-----|------|----|--------|
| 1回目 | 令和元年 | 4月 | 15日(月) |
| 2回目 | 令和元年 | 6月 | 24日(金) |

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変更シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | |
|-------|---|------------------------|-----------|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| 小・中・高 | 1・2・3・4・5・6年 | 障害名(病名) | 自閉スペクトラム症 |
| 教育課程 | 準ずる教育課程・準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | |
|--|---|--|--------------------------|
| ①教育的ニーズの項目 | A4 意欲・気力(目標が持てない、やる気がおきない) B4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない) B10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない) | A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い) |
| ②課題の整理 | 自分の気持ちを言語化することが難しい。 相手の顔色を見て気持ちを読み取ることが難しい。 | | |
| ③支援・配慮等のねらい | 自分の気持ちを表出できる対象を増やす。 | | |
| ④教育的支援・配慮 | | | |
| A心理 受容期 (試行期) 安定期 | B社会性 受容期 (試行期) 安定期 | C学習 受容期 試行期 安定期 | D身体 受容期 試行期 安定期 |
| E学校生活 受容期 試行期 安定期 | F自己管理 受容期 試行期 安定期 | | |
| スモールステップで学習に取り組むことができるようにする。 自分の気持ちの表出方法を増やす(筆記やカードなど)。 教員が気持ちを表現して、言葉・タイミングを伝えていく。 日常の小さなことを沢山ほめて自信をつける。 | 自分が困ったときにどうすれば良いかを、信頼できる先生と一緒に考える。 ペアやグループを作るときに教員がフォローして、友達と関わりやすくする。 | | |

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--|---|--|---|--|---|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 ② 病気の状態の理解と生活管理 ③ 身体各部の状態の理解と養護 ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 ⑤ 健康状態の維持・改善 | ① 情緒の安定 ② 状況の理解と変化への対応 ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ① 他者とのかかわりの基礎 ② 他者の意図や感情の理解 ③ 自己の理解と行動の調整 ④ 集団への参加の基礎 | ① 保有する感覚の活用 ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 ② 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ③ 日常生活に必要な基本動作 ④ 身体の移動能力 ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ① コミュニケーションの基礎的能力 ② 言語の受容と表出 ③ 言語の形成と活用 ④ コミュニケーション手段の選択と活用 ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導していく内容 | | | | | |

| ⑥教育的支援・配慮の指導効果 | | | | | |
|---|--|-----|-----|-------|-------|
| A心理 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 |
| どの教員にでも、自分の考えを伝えることができるようになってきている。 同年代の児童(特定の児童は除く)には、自分の考えを伝えることがまだ難しい。 学習にも少しずつ自信が見え始め、当初は嫌がっていたテスト等も受けることができていく。 | ほとんど関わりのない児童とも教員が仲介すると最低限のコミュニケーションを取ることができている(相手の問いかけに対する「うん」「いいえ」の返事など)。 | | | | |

| | | | |
|------------|--|--|------------------------------------|
| ⑦教育的ニーズの変容 | A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない) B10 他者理解(表情や態度から気持ちが読み取れない) | A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い) D3 動作・体力(体力がない、動きがはやくできない) | B4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) |
|------------|--|--|------------------------------------|

| | | | | |
|-------------------|--|----|-----|-----------|
| ①・中・高 | 学年 | 6年 | 障害名 | 自閉スペクトラム症 |
| タイトル(題材名) | 学級旗づくり | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | <p>発達や経験の程度 小4のはじめに東京から大阪に転居した。新しい学校では新たに友人関係を構築することが難しく孤立した。担任に相談してみたものの解決には至らなかった。そこから学校内で他者との会話が少なくなり、緘黙状態での生活が続いた。小4の2学期から小5の10月(入院および本校入級)まで不登校。</p> <p>興味・関心・特性 現在、学習空白の補填のため、下学年の内容を学習している。しかし本人は「当該学年の学習をしたい」という強い思いを持っている。自分に注目されることに強い拒否感がある。</p> <p>生活や学習環境 現在、入院して約8ヶ月、規則正しい生活を送れている。また、特定の仲の良い友だちができ、笑顔で会話する様子が見られる。教員とも、会話することができている。</p> | | | |

| | | | | | |
|--------------------|---|--------------------|--------------------|--------------------|------------------------|
| ねらい | <p>I. 自分の考えや意見が肯定的に評価される経験をする。 II. 周りの状況を把握しながら作業をすることができる。</p> | | | | |
| 自立活動でねらいポイント | | | | | |
| 健康の保持 ① ② ③ ④ ⑤ | 心理的な安定 ① ② ③ | 人間関係の形成 ① ② ③ ④ | 環境の把握 ① ② ③ ④ ⑤ | 身体の動き ① ② ③ ④ ⑤ | コミュニケーション ① ② ③ ④ ⑤ |

| | |
|------|---|
| 指導内容 | <p>① 活動の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のめあてや、流れ等を掲示し、見通しをもつ。 ・昨年度の分教室旗を鑑賞する。 ・今年度のテーマを発表する。 ・小グループを複数編成し、グループごとに担当を決め、下絵に色を塗る。 ・グループ内で、細かいところの色などについて話し合う。 ・完成した作品を鑑賞する。 ・付箋を用いて、全員で工夫した点や難しかった点、作ってみた感想などを共有する。 <p>② ねらいを実現できるポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で話し合いをするところ。(ねらいI) ・他児とひとつの紙に同時に色を塗るところ。(ねらいII) ・付箋に自分の意見を入力するところ。(ねらいI) ・自分の意見が、みんなに共有されること。(ねらいI) <p>③ 留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ編成は、本児が話しやすい児童1名と、そうでない児童1名、教員で編成する。 ・記入した考えは匿名で表示されることを事前に説明しておく。 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・作業中には「そこ塗りたいからどいてもらっていい？」などお互い声をかけながら作業を進めることができていた。また、そんなに親しくない児童とも色を決めるときに教員が仲介して相談しあう姿が見られた。 ・感想では、「協力して頑張った！」など、「自分」だけではなく「他者」を意識したのが見られた。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・他児とのかかわりには教員の仲介が今後も必要であると思われる。 ・自分の考えや意見が肯定的に捉えられる経験をしていくことで、今後は「私の考えは〇〇である」といったように、自分の意見として発信したいという気持ちを育むことが求められる。 |

精神疾患及び心身症(こころの病気)の教育的ニーズチェックリスト

6つのカテゴリーにある各項目の内容も参考にして、教育的ニーズがある場合に、チェックしてください。

(教育が進んだ段階で、二度目のチェックをし、個別の教育支援計画・個別の指導計画の見直しに役立ててください。)

※心理・社会性に注目されますが、他の項目も、必ずチェックしてください。

| | | |
|-------|---|--|
| | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) |
| 小・中・高 | 1・2・③・4・5・6年 | 精神疾患等の障害はなし(先天性心疾患、単心室症、総肺静脈還流異常症、無脾症、肺静脈狭窄繰返) |
| 教育課程 | 準ずる教育課程 準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | |

| 心理 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| A1 不安・悩み (不安が強い、悩みが頭から離れない) | ✓ | |
| A2 感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう) | ✓ | |
| A3 こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない) | | |
| A4 意欲・気力 (目標が持てない、やる気がおきない) | | |
| A5 自己理解 (何が辛いのか自分でもわからない) | ✓ | |
| A6 気持ちの表現 (気持ちを言葉・文字に表せない) | ✓ | ✓ |
| A7 情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする) | ✓ | |
| A8 気分の変動 (気分の浮き沈みがある) | ✓ | |
| A9 自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い) | ✓ | ✓ |

| 社会性 | 1回目 | 2回目 |
|---|-----|-----|
| B1 集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない) | ✓ | |
| B2 社会のルールの理解 (学校や社会の規則が守れない、自分で変更する) | | |
| B3 コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない) | ✓ | ✓ |
| B4 同年代との関係 (相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | | ✓ |
| B5 家族との関係 (家族との関係がうまくいかない) | | |
| B6 教師との関係 (教師を信用しない、教師とのトラブル) | | |
| B7 異性との関係 (異性との関係がうまくいかない) | | |
| B8 他者への信用 (人が信用できない、人と関わりたくない) | | |
| B9 他者への相談 (困った時に相談できない) | | |
| B10 他者理解 (表情や態度から気持ちが読み取れない) | | |

| 学習 | 1回目 | 2回目 |
|--|-----|-----|
| C1 学習状況 (勉強の仕方がわからない) | ✓ | |
| C2 処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない) | | |
| C3 聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、指示内容がわからない) | | |
| C4 読み・書き (文章を読むのが苦手、漢字を正しく書けない) | ✓ | |
| C5 記憶力 (すぐに忘れてしまう) | ✓ | |
| C6 注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない) | ✓ | |
| C7 学習への意識 (嫌いな教科に出たくない) | | |
| C8 経験 (生活経験が低い) | ✓ | ✓ |

| 身体 | 1回目 | 2回目 |
|------------------------------------|-----|-----|
| D1 身体状況・体調 (お腹や頭が痛い、過呼吸や喘息がおこる) | | |
| D2 巧緻性 (手先を使って操作することが指示通りできない) | | |
| D3 動作・体力 (体力がない、動きがはやくできない) | ✓ | |
| D4 多動性 (じっとしていられない、待てない) | | |
| D5 感覚過敏 (においに敏感、大きな声が嫌) | | |

| 学校生活 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| E1 見通し (予定の変更が受け入れられない) | | |
| E2 物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう) | | |
| E3 登校・入室への抵抗感 (学校へ行きたくない、教室にはいれない) | | |

| 自己管理 | 1回目 | 2回目 |
|---------------------------------------|-----|-----|
| F1 睡眠・生活リズム (朝起きられず遅刻してしまうことが多い) | | |
| F2 食事 (給食が食べられない、外食ができない) | | |
| F3 服薬 (薬が手放せない、薬の管理が面倒) | | |
| F4 病気の理解 (自分自身の病状を理解していない) | ✓ | ✓ |
| F5 ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦手なことから逃れたい) | ✓ | |

実施日

| | | | |
|-----|-------|----|--------|
| 1回目 | 2019年 | 7月 | 5日(金) |
| 2回目 | 2020年 | 1月 | 24日(金) |

精神疾患等のある児童生徒の教育的支援・配慮の整理・変容シート

- ① 対象児童生徒の「教育的ニーズ」について、チェックした項目から特に重要視している項目を記入
- ② 教育的ニーズから、学習及び生活上の課題を対象生徒の実態に合わせて整理し、記載してください。
- ③ 課題に合わせて、教育的な支援や配慮や指導を考えて、「ねらい」を記載してください。
- ④ 支援・配慮等のねらいに対する支援・配慮を、Co-Mameを参考に記載してください。(①で選んだ教育的ニーズに対応した支援・配慮)
- ⑤ 支援・配慮を踏まえ、矢印を参考に指導する自立活動の区分で該当するものにチェックし整理してください。
- ⑥ 指導が進んだ段階で、教育的支援・配慮による指導効果(生徒の変容)を項目別に記載してください。
- ⑦ 2回目の「教育的ニーズ」についてチェックし、重要視する項目を記入します。

| | | | | |
|-------|---|---------|--|--|
| | | | (精神疾患等の二次的障害等をご記入ください) | |
| 小・中・高 | 1・2・③ 4・5・6年 | 障害名(病名) | 精神疾患等の障害はなし(先天性心疾患、単心室症、総肺静脈還流異常症、無脾症、肺静脈狭窄繰返) | |
| 教育課程 | 準ずる教育課程 準ずる教育内容(下学年適用)・知的障がいの教育課程(知的代替)・自立活動を主とする教育課程 | | | |

| 項目 | 記入欄(プルダウンメニューから選択) | | | | | |
|---|--|--------------------------|---------------------------|----------------------|---|--|
| ①教育的ニーズの項目 | A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない) | A9 自信(自分に自信がない、自己肯定感が低い) | F4 病気の理解(自分自身の病状を理解していない) | | | |
| ②課題の整理 | <ul style="list-style-type: none"> ・1人学級であるため、友達と関わる機会が少なく、自分から友達に話しかけたり、お礼を言ったりすることが難しい。また、大人からの関わりが多いため、自分から、教師に支援を依頼することも少ない。(A6) ・健康状態の自覚や自己管理が難しく、体調が悪い時の休憩や早退を受け入れることができない。また、こまめな水分補給や排せつへの意識にも課題がある。(F4) | | | | | |
| ③支援・配慮等のねらい | <ul style="list-style-type: none"> ①様々な場面の動画を見て、適切な言葉遣いや話しかけ方を選び、ロールプレイをすることで、適切な言葉遣いや話しかけ方を知ることができるようにする。 ②集団での学習を設定し、活動の中で友達を助けたり、思いやったりする場面があった時には、褒めることで友達との適切な関わり方を自覚することができるようにする。 ③健康チェックシートを休み時間ごとにチェックすることで、SPO2・気分・顔色と元気を照らし合わせて次の活動の量を3段階から選べるようにする。 | | | | | |
| ④教育的支援・配慮 | | | | | | |
| A心理 (受容期) (試行期) 安定期 [受容期] ・手本を見て、気持ちなどの伝えたいことを伝える方法を知る。 ・話しやすい環境の中で、言葉掛けをしながら活動を行う。 [試行期] ・集団での活動で、自分の意見や気持ちを言えた時は褒める。 ・集団の活動や具体的な場面を挙げて、自分の気持ちや意見を伝える活動を行う。 | B社会性 受容期 試行期 安定期 | C学習 受容期 試行期 安定期 | D身体 受容期 試行期 安定期 | E学校生活 受容期 試行期 安定期 | F自己管理 (受容期) 試行期 安定期 ・担任や看護師と一緒に体調チェックを行うことで、自分の体調を知る。 ・体調チェックカードを見て、SPO2、気分、顔色、元気度など体調をチェックする項目を知る。 ・水分補給や排泄を促し、自分から気を付けることができた時に褒める。 | |

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|--------------------|------------------------------|---------------|------------------------------------|----------------------|---------------------|
| ① 生活のリズムや生活習慣の形成 | ① 情緒の安定 | ① 他者とのかかわりの基礎 | ① 保有する感覚の活用 | ① 姿勢と運動・動作の基本的技能 | ① コミュニケーションの基礎的能力 |
| ② 病気の状態の理解と生活管理 | ② 状況の理解と変化への対応 | ② 他者の意図や感情の理解 | ② 感覚や認知の特性についての理解と対応 | ② 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 | ② 言語の受容と表出 |
| ③ 身体各部の状態の理解と養護 | ③ 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲 | ③ 自己の理解と行動の調整 | ③ 感覚の補助及び代行手段の活用 | ③ 日常生活に必要な基本動作 | ③ 言語の形成と活用 |
| ④ 障害の特性の理解と生活環境の調整 | | ④ 集団への参加の基礎 | ④ 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と理解に応じた行動 | ④ 身体の移動能力 | ④ コミュニケーション手段の選択と活用 |
| ⑤ 健康状態の維持・改善 | | | ⑤ 認知や行動の手掛かりとなる概念や形成 | ⑤ 作業に必要な動作と円滑な遂行 | ⑤ 状況に応じたコミュニケーション |
| ⑤自立活動として指導していく内容 | | | | | |

| ⑥教育的支援・配慮の指導効果 | | | | | |
|--|------|-----|-----|-------|---|
| A心理 ・設定された場面の中では、学んだ表現方法を使って話しかけることができるようになった。 ・集団の学習の中で、自分から友達にゲームのルールを説明したり、お礼を言ったりすることができた。 | B社会性 | C学習 | D身体 | E学校生活 | F自己管理 ・自分から、水分補給をしたり、風邪気味の時に早退をすることができた。 ・頑張る活動を決めて、それ以外の活動は教師と相談し、活動量を抑えて活動することができた。 |

| | | | | |
|------------|---------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|---------------------------|
| ⑦教育的ニーズの変容 | A6 気持ちの表現(気持ちを言葉・文字に表せない) | B3 コミュニケーションスキル(あいづちがうてない、人の話が聞けない) | B4 同年代との関係(相手のことを考えた言動ができずトラブルになる) | F4 病気の理解(自分自身の病状を理解していない) |
|------------|---------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|---------------------------|

| | | | | |
|-------------------|---|----|-----|--|
| 小・中・高 | 学年 | 3年 | 障害名 | 精神疾患等の障害はなし(先天性心疾患、単心室症、総肺静脈還流異常症、無脾症、肺静脈狭窄繰返) |
| タイトル(題材名) | 友達と一緒にゲームをしよう | | | |
| 対象となる児童生徒の実態(タイプ) | 行動観察:自分から友達に話しかけたり、お礼を言ったり、意見を言ったりすることが少ない。 環境:慣れていない集団だと緊張して無口になり、表情が乏しくなる。 興味・関心:トランプやおセロなど卓上でできるゲームが好きである。 | | | |

| | |
|-----|--|
| ねらい | ①集団の学習の中で、ゲーム等を通して、友達に意見を言ったり友達の意見を聞いたりする。 ②ルールを守って、役割を意識しながら友達とゲームをする。 |
|-----|--|

自立活動でねらうポイント

| 健康の保持 | 心理的な安定 | 人間関係の形成 | 環境の把握 | 身体の動き | コミュニケーション |
|-----------|--------|---------|-----------|-----------|-----------|
| ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ | ① ② ③ ④ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ | ① ② ③ ④ ⑤ |

| | |
|------|--|
| 指導内容 | ① 活動の概要 (小学部4名での集団自立) ・学習のめあてや流れ等を板書し、見通しを持たせる。 ・ゲームを決める話し合いのときには、全員が意見を言えるように促す。 ・協力して遊びに必要な準備ができるように、役割分担を事前に確認し、ホワイトボードに提示する。 ・ゲームをしている間は、自分の役割を意識できているか言葉掛けをする。 ・学習を振り返りのときには、役割を意識できていたか自己評価をさせる。また、児童が役割を意識できていたり、友達を助ける場面があれば褒める。 ・最後に、自分や友達のよいところを発表させることで、自分の行動について自信を深めたり、自己肯定感を高めたりすることができるようにする。 ②留意点 ・自分から友達に話しかけたり、お礼や意見を言うことができたときに褒める。 ・本児の役割(ルールを説明する)場面が来たときに、自分から説明ができない場合は教師や友達に助言を求めたり、支援をお願いしたりできることを事前に伝える。 ・本児が自分で意見を決めて伝えることが難しいときには、教師が本児と話し合うことで意見を決めることができるようにする。 ・意見を言うことが過度の負担にならないように、意見を言うことができないときでも他の児童の意見を受け入れることができれば褒める。 |
| 成果 | ① ・トランプゲームを決める場面では、児童らが知っているトランプゲームをホワイトボードに示すと、その中からやりたいトランプゲームを選んで友達に伝えることができた。 ・片付けをしてくれたり、筆記用具を貸してくれたりした友達に教師と一緒にお礼を言うことができた。 ・自分がしたいゲームや役割について、意見を言うことができた。また、ゲームが話し合いで決まらなかったときに、自分の気持ちを優先せず、友達がそのゲームをしたい理由に納得して、譲る姿も見られた。 ② ・自分が知っているトランプゲームをするときに、ルールを友達に説明しながらゲームを行うことができた。 ・クイズをみんなで解く場面では、自ら筆記係に立候補し、友達の意見を聞きながら答えをプリントに書くことができた。 |
| 課題 | ① ・選択肢がない場合の話し合いでは、進んで意見を言うことは少なかった。 ・教師の促しがなければ、友達に分からないことを聞いたり、お礼を言ったりすることが少なかった。 ② ・友達がトランプを配ったり、片付けをししたりしているときに傍観していることが多く、教師の促しがなければ自ら手伝うなどの様子はあまり見られなかった。 |